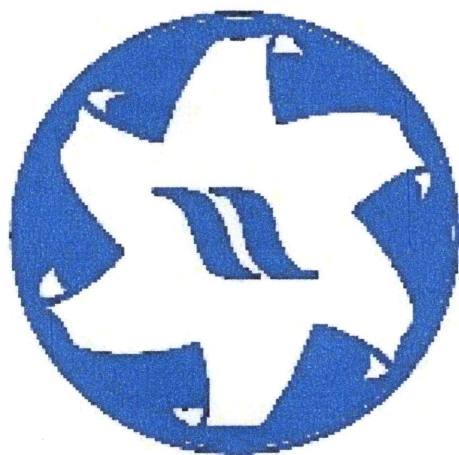


年 報

2019年度



社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

厚木看護専門学校

はじめに

本校は、1968年4月に社会福祉法人老人福祉事業団 厚木准看護婦学校として開校し、2018年4月に創立50周年を迎えました。「人間らしく共に生きるために」という社会福祉の理念に基づき、ヒューマニズムの精神を建学の理念とし、身体的・精神的・社会的にいろいろな角度から健康生活の援助ができる自律した看護師の育成をめざしています。1972年に2年課程（看護第二学科・昼間定時制）、1982年には3年課程（看護第一学科・全日制）を増設しました。時代の変化に応じて准看護学科を2003年に廃止し、看護第二学科も2021年3月に最後の卒業生を送り出し廃止となります。

2019年度は、4月に看護第一学科38回生85名の新入生を迎えました。看護第二学科の募集停止により看護第一学科のみの入学式となりました。

5月は平成から令和への改元で祝賀ムードに包まれ、9月はラグビーワールドカップ日本開催により感動と熱狂に湧きました。しかし、房総半島台風、東日本台風が関東を直撃し、本校も授業や実習、校舎等被害に見舞われました。さらに、2020年を迎えると新型コロナウイルスによる感染拡大が瞬く間にパンデミックを引き起こし、かつて体験したことのない危機状況に直面することとなりました。

感染拡大防止のため、3月の卒業式は規模を縮小して実施しました。来賓、保護者の方々が参列しない卒業式は寂しくもありましたが、看護第一学科88名、看護第二学科26名は逞しく臨床へと巣立っていきました。卒業生は現在まで4147人を数え、卒後の進路は本校の使命に基づき、神奈川県内医療機関に100%、県央地区に63%の就職率を達成することができました。コロナ禍の中、新人看護師として入職した卒業生たちが、高い志をもって地域の医療に貢献できる人材に成長していくことを願うばかりです。

本校が2005年から継続している自己点検・自己評価活動については、教育の質をより高めることを目指して取り組みました。あらたに授業改善会議を立ち上げ、教員間の授業参観の推進、看護実践力向上に向けた看護技術到達度評価の見直しを実施しました。また、情報管理や安全管理体制の整備を着実に進めることができました。ホームページの定期的更新が定着し閲覧数も増加したことで、オープンキャンパス・学校見学会の盛況に繋がったと感じております。

2020年度のスタートは、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下のため、学生は登校停止の渦中にありましたが、教職員たちの尽力により4月中旬からオンライン授業を実施することができました。6月からは3つの密を避ける環境を整備して、各学年での分散登校を開始しています。さまざまな変化に柔軟に対応し、魅力ある学校づくりに向けて、今後も積極的に取り組んでまいります。

本校の2019年度教育活動について、ここに年報としてまとめました。2018年度年報より、学校の見える化を推進するため、ホームページでの公開としております。

今後とも本校の教育活動、運営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020（令和2）年 6月

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
厚木看護専門学校
学校長 武藤 和恵

目 次

1 . 理 念	1
2 . 沿 革	1
3 . 2 0 1 9 年 度 重 点 目 標	2
4 . 学 校 組 織	2
(1) 組 織 図	2
(2) 教 職 員 の 構 成	2
(3) 各 種 会 議 ・ 委 員 会 等	3
5 . 教 育 活 動 ・ 評 価	
(1) 教 育 目 的 ・ 目 標	7
(2) 授 業 科 目 及 び 履 修 時 間 数	8
(3) 講 師 ・ 専 任 教 員 の 状 況	11
(4) 実 習 施 設 状 況	11
(5) 授 業 評 価 活 動	12
(6) 授 業 参 観 活 動	12
(7) カ リ キ ュ ラ ム 評 価	13
(8) 講 師 会 議	25
(9) 研 修 の 受 け 入 れ 状 況	25
(10) 夏 期 臨 地 実 習 指 導 者 研 修 会	25
6 . 教 員 の 研 修 ・ 研 究 活 動 等	
(1) 学 会 ・ 紙 上 発 表	26
(2) 座 長 ・ 講 師 等	27
(3) 学 外 研 修 参 加	28
(4) 学 会 ・ 団 体 の 入 会 状 況	36
(5) 受 賞 ・ 認 定 等 取 得 状 況	37
(6) 職 員 研 修	38
7 . 学 生 に 関 す る 状 況	
(1) 学 生 の 在 籍 状 況	40
(2) 入 学 試 験 の 状 況	40
(3) 入 学 生 の 出 身 地	41
(4) 看 護 師 国 家 試 験 合 格 状 況	41
(5) 就 職 ・ 進 路 状 況	41
(6) 奨 学 金 の 貸 付 状 況	42
(7) ス ク ー ル カ ウ ン セ リ ン グ の 利 用 状 況	42

8. 学生確保活動

(1) 推薦指定校の推移	43
(2) オープンキャンパス・学校見学会	43
(3) 一日看護体験	44
(4) 進学説明会	45

9. 年間の行事

10. 年間行事等の実施状況

(1) 文化祭（第26回たまご祭）	47
(2) 看護を考える日・特別講演	47
(3) 実習病院合同就職説明会	47
(4) 看護第一学科指定校推薦に関する説明会	48
(5) 厚看卒新人看護師のつどい	48
(6) 保護者説明会	49
(7) 地域高齢者との交流	49
(8) 手作りおもちゃの遊びの会	49
(9) 推薦入学生準備説明会	50
(10) 禁煙講演会	50
(11) 学生のボランティア活動等	51

11. 図書活動状況

(1) 蔵書冊数	53
(2) 新規受け入れ状況	53
(3) レファレンスサービス	53
(4) 貸出状況（利用実績）	53

1. 理念

本校は、「人間らしく共に生きるために」という社会福祉の理念に基づき、ヒューマニズムの精神を建学の理念とし、身体的・精神的・社会的に様々な角度から健康生活への援助ができる自律した看護師の育成を目指している。

2. 沿革

本校は、昭和 43 年 4 月に社会福祉法人神奈川県老人福祉事業団厚木准看護婦学校として開校し、昭和 47 年 4 月に看護師への道を拓くため看護婦学科・2 年課程（現在の看護第二学科）を新設した。また昭和 55 年 11 月に各種学校から専修学校へと移行し、昭和 57 年 4 月には「医療の高度化と分化に対応する看護の充実」を図るため看護第一学科・3 年課程を新設した。

昭和 43 年 4 月	旧厚木保健所を改修し、厚木准看護婦学校として開校
昭和 44 年 7 月	各種学校として認可（県指令学宗第 194 号）
昭和 46 年 3 月	校舎増設のため旧厚木市役所へ仮移転
昭和 46 年 5 月	校舎新築工事着工
昭和 46 年 12 月	看護婦養成所として指定（厚生大臣）
昭和 47 年 4 月	看護学科（2 年課程・昼間定時制）を新設、厚木看護学院と改称
昭和 47 年 7 月	校舎完成（厚木市寿町 2-2-4）
昭和 48 年 4 月	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団立となる
昭和 55 年 11 月	専修学校の「専門課程、高等課程」の学校課程認可
昭和 56 年 4 月	厚木看護専門学校と改称
昭和 57 年 4 月	看護第一学科新設（3 年課程・全日制）
平成 7 年 3 月	医療専門課程の看護第一学科・看護第二学科卒業生に対し、「専門士（医療専門課程）」の称号が付与される
平成 9 年 11 月	創立 30 周年記念式典開催
平成 10 年 3 月	在宅看護実習棟の設置
平成 15 年 3 月	准看護学科（医療高等課程）廃止
平成 20 年 10 月	現校舎新築工事着工
平成 21 年 12 月	校舎移転・入学定員等の変更承認（厚生労働大臣）
平成 22 年 2 月	現校舎完成
平成 22 年 4 月	現校舎へ移転
	入学定員の変更 （看護第一学科入学定員を 40 人から 80 人に変更） （看護第二学科入学定員を 30 人から 40 人に変更）
平成 24 年 4 月	総定員（看護第一学科 240 人、看護第二学科 120 人の計 360 人）による稼働開始
平成 25 年 4 月	看護第二学科の開校形態変更（半日週 5 日→全日週 3 日登校へ）
平成 29 年 2 月	文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受ける
平成 30 年 4 月	創立 50 周年を迎える
平成 31 年 3 月	創立 50 周年記念式典開催
令和 元年 9 月	神奈川県知事より「高等教育の修学支援新制度」の認可を受ける

各学科指定年月日

区 分	看護第一学科 （3 年課程・全日制）	看護第二学科 （2 年課程・昼間定時制）
学校養成所 指定年月日	昭和 56 年 12 月 25 日 厚生大臣指定	昭和 46 年 12 月 27 日 厚生大臣指定

学生定員

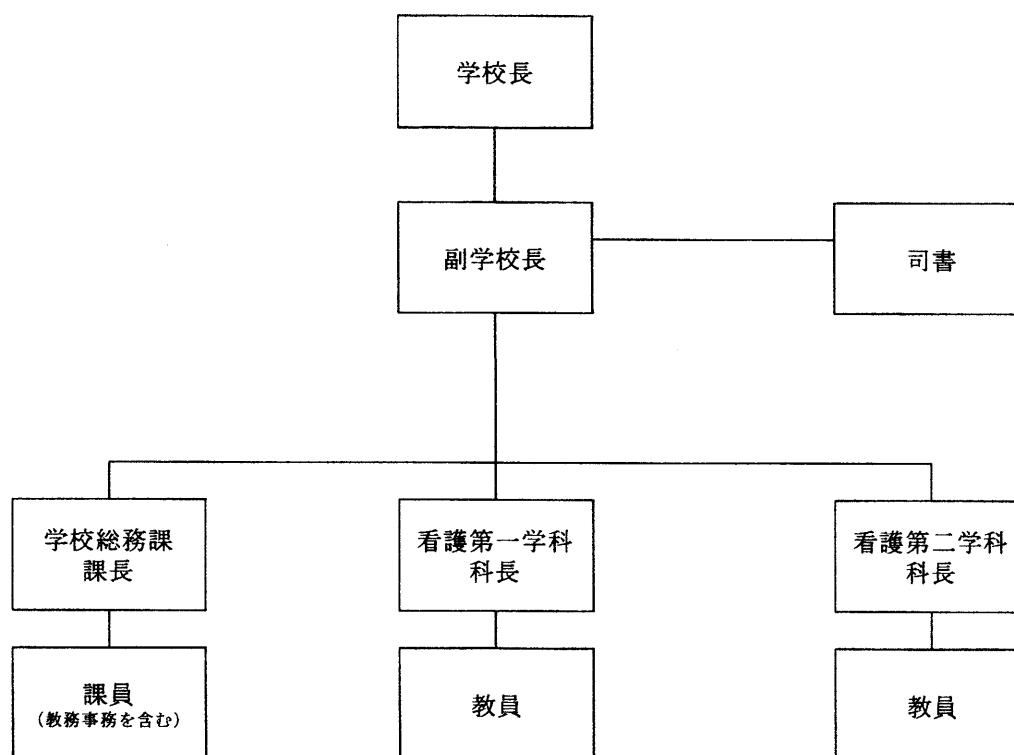
学科名	学級数	入学定員	総定数
看護第一学科	2	80 人	240 人
看護第二学科	1	40 人	120 人

3. 2019 年度 重点目標

- (1) 学校がめざす目的・目標に向かって学生個々のニーズを的確にとらえた教育サービスを提供する
- (2) 学校の質保証・向上にむけて、職員倫理規定を遵守するとともに教職員のマネジメント力を高める
- (3) 県央地区唯一の看護専門学校としての存在価値を高める
- (4) 学校の経営改善に向けた学生募集戦略の強化および業務効率化・生産性向上を図る

4. 学校組織

(1) 組織図



(2) 教職員の構成 (2019 年 4 月 1 日現在)

(単位：人)

学校長		1
副学校長		1
専任教員	看護第一学科	20
	看護第二学科	7
事務職員		3 (非常勤1)
教務事務		1 (臨時)
司書		1 (非常勤)
計		34 (正規31、臨時1、非常勤2)

(3) 各種会議・委員会等

1) 外部委員を招聘した会議

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催状況
学校運営協議会	厚木看護専門学校 の運営に 関する事項に ついて協議す る	①学校運営に 関すること ②学校教育に 関すること ③その他会長 が必要と認め る事項に関す ること	◎厚木医師会が推薦する者 ・厚木病院協会が推薦する者 ・神奈川県看護協会県央支部が推薦する者 ・実習施設看護部門代表 ・厚木市市民健康部長 ・学識経験者 ・学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：島田真由美 ・看護第二学科長：大河原亮一	2019年 11月21日
教育課程編成委員会	厚木看護専門学校 の教育課程 に関する事項 について協議 する	①教育課程に 関すること ②その他必要 と認める事項 に関するこ と	・厚木医師会が推薦する者 ・厚木病院協会が推薦する者 ・神奈川県看護協会県央支部が推薦する者 ・実習施設看護部門代表 ・厚木市市民健康部長 ・学識経験者 ◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：島田真由美 ・看護第二学科長：大河原亮一	2019年 7月2日 11月21日
倫理委員会	厚木看護専門学校 に所属する職 員が行なう看護 教育が倫理的配 慮のもとに行な われ、かつ学生 等の人権及び生 命の擁護に寄与 することを目的 とする	学校において行 われる看護教育 等に関し、倫理 上の配慮が求め られる次の事項 について審議す る。 ①看護教育に 関すること ②学生に関す ること ③学校運営に 関すること ④職員の研究 等に関すること ⑤その他倫理 委員会議長が 必要と認めた 事項に関する こと	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・看護第一学科長：島田真由美 ・看護第二学科長：大河原亮一 ・看護第一学科技幹：中原真弓 ・事業団事務局長 ・外部委員	2019年 6月18日 11月7日

◎は議長を示す

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催状況
「明日の厚木看護専門学校を考えた」 学校関係者評価委員会	厚木看護専門学校が実施する自己点検・自己評価の客観性及び透明性を高める	①学校運営に関する こと ②学校教育に関する こと ③その他必要と認める 事項に関する こと	・事業団事務局長 ・神奈川リハビリテーション病院 看護部長 ◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：島田真由美 ・看護第二学科長：大河原亮一 ・授業改善会議リーダー：櫛谷由佳 ・外部委員（学生委員含む）13名	2019年 9月12日

◎は議長を示す

2) 学校内会議

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催等
学校経営会議	厚木看護専門学校に掲げる所掌事項の審議を行う	①学校運営上の課題に関する こと ②学校の経営状況に関する こと ③その他学校の経営上の諸課題に関する こと	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：島田真由美 ・看護第二学科長：大河原亮一 ・看護第一学科技幹：中原真弓 ・一科総括主査：田原裕子 ・二科総括主査：持木香代	2019年 4月9日 ～ 2019年 3月12日 計11回
経営計画推進会議	厚木看護専門学校の効率的な運営及び経営の推進を図る	①経営計画の着実な推進に関する こと ②その他必要な事項に関する こと	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美 ・看護第一学科技幹：中原真弓 ・一科総括主査：田原裕子 ・二科総括主査：持木香代 ・授業改善会議リーダー：櫛谷由佳 ・学生確保会議リーダー：安藤直子 ・学校安全会議リーダー：前田幹香	2019年 6月10日 ～ 2020年 2月10日 計4回
職員会議	厚木看護専門学校の学校運営や看護教育が円滑に行われることを目的とする	①学校運営における具体的な課題事項に関する こと ②その他学校の諸課題の具体的な事項に関する こと	※進行・書記は指定した職員 学校長以下全職員参加	2019年 4月1日 ～ 2020年 3月26日 計13回

◎は議長を示す

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催等
経営計画推進会議下部会議	厚木看護専門学校における授業において、質の高い授業や教授活動の充実を目的とする	①授業改善会議	◎主査：櫛谷由佳 ・看護第一学科長：島田真由美 ・主査：三浦夏枝 ・主査：杉崎真紀 ・主査：市原真由美 ・主査：小泉由香里 ・主任技師：菊池寛子 ○技師：西川裕美 ・技師：中野志津江 ・主任技師：今田美和子	2019年 4月3日 ～ 2020年 2月27日 計11回
	厚木看護専門学校における学生確保対策活動において、質の高い学生の確保を目的とする	②学生確保会議	◎主査：安藤直子 ・総務課長：栗本慶一 ・総括主査：田原裕子 ・主任技師：渡辺彩 ○主任技師：渡邊雅英	2019年 4月3日 ～ 2020年 2月27日 計11回
	厚木看護専門学校の教育理念・教育目標に基づき、学生が安全な学校生活を送れるよう支援することを目的とする	③学校安全会議	◎主査：前田幹香 ・看護第二学科長：大河原亮一 ・総括主査：持木香代 ・主査：長塚彩加 ・主査：藤原則子 ・主査：佐倉幸子 ○主査：池田紀子 ・主査：三浦英子 ・技師：高井咲恵 ・技師：関真弓	2019年 4月3日 ～ 2020年 2月27日 計11回

◎はリーダー・○はサブリーダーを示す

看護第一学科会議	看護第一学科の運営や看護教育が円滑に行われることを目的とする	①科内における具体的な課題事項に関すること ②その他諸課題に関すること	・看護第一学科長および科員	2019年 4月2日 ～ 2020年 3月31日 計29回
看護第二学科会議	看護第二学科の運営や看護教育が円滑に行われることを目的とする	①科内における具体的な課題事項に関すること ②その他諸課題に関すること	・看護第二学科長および科員	2019年 4月1日 ～ 2020年 3月31日 計34回

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催等
合否判定会議	入学試験後の合否を公正かつ円滑に判定する	入学試験後の合否判定に関する事	非公表	2018年 9月11日 ～ 2019年 3月11日 計11回
認定会議	授業科目の評価及び単位授与に関する細則」第11条、第13条「入学前の既修得単位の認定に関する細則」第4条及び「学則」第28条の規定に基づき審議を行う	①単位認定に関する事 ②卒業認定に関する事 ③既修得単位認定に関する事	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：島田真由美 ・看護第二学科長：大河原亮一 ・看護第一学科技幹：中原真弓 ・一科総括主査：田原裕子 ・二科総括主査：持木香代 ・各科教員	単位認定 2020年 3月24日 卒業認定 2020年 2月3日

◎は議長を示す

5. 教育活動・評価

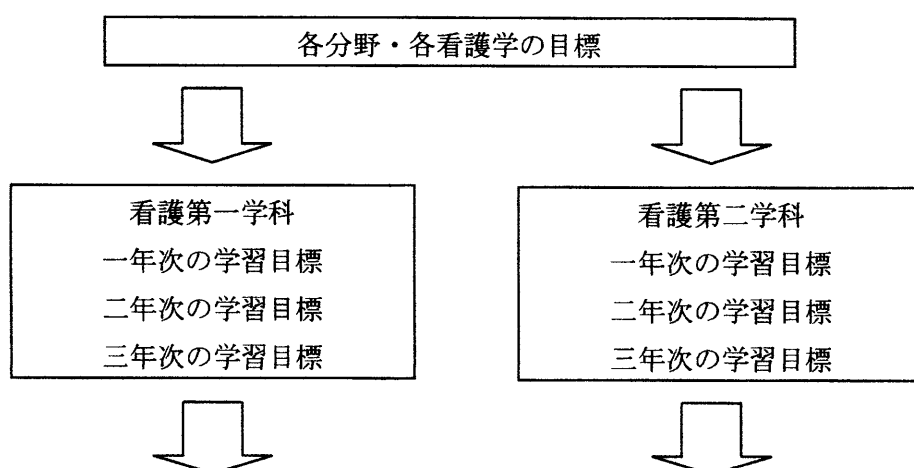
(1) 教育目的・目標

教育目的

本校は学校教育法及び保健師助産師看護師法の規定に基づき、看護師として必要な知識及び技術を習得させ、併せて一般教養の向上をはかり有能な人材を育成する

教育目標

- 1 個人・家族・社会における人間の生活に焦点をあて、看護の視点から現代社会の健康ニーズを理解するために、必要な知識と感性、コミュニケーション能力を培い、自由で心豊かな人間形成を目指す
- 2 人々の多様な価値観を認識し、人間の生命、個人の尊厳及び権利を尊重できる責任を自覚し、専門職業人として倫理に基づいた看護を実践できる
- 3 科学的根拠に基づき、健康に関連した諸問題を解決できる看護実践能力を養う
- 4 最新の知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養い、主体的に看護を探究し続けていく姿勢を養う
- 5 保健・医療・福祉について考えられる基礎を学び、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるよう、それらを調整する為の基礎的能力を養う



卒業時に期待する能力

- 1 看護の専門的知識・技術を身につける
- 2 人間の生命、個人の尊厳及び権利を尊重できる
- 3 看護師の役割を認識し責任ある行動ができる
- 4 学習を継続する必要性を認識し努力できる
- 5 一般教養を身につけ高める努力ができる
- 6 人間関係を発展させる基礎的能力を身につける

段階的な目標を掲げ、点検・評価しながら、一貫性のある質の高い教育をめざしている。

(2) 授業科目及び履修時間数

ア 看護第一学科

授業科目			単位数(時間数)			計
			第1学年	第2学年	第3学年	
基礎分野	科学的思考の 基盤	文章表現法	1 (30)			1 (30)
		体育	1 (30)			1 (30)
		化学	1 (30)			1 (30)
		情報科学	1 (30)			1 (30)
		英語Ⅰ	1 (30)			1 (30)
		英語Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	人間の生活・ 社会の理解	論理学	1 (15)			1 (15)
		社会学	1 (30)			1 (30)
		ボランティア論	1 (15)			1 (15)
		教育学		1 (30)		1 (30)
		心理学	1 (30)			1 (30)
		哲学	1 (15)			1 (15)
		倫理学	1 (15)			1 (15)
		人間関係論Ⅰ	1 (15)			1 (15)
		人間関係論Ⅱ			1 (30)	1 (30)
	小計		12 (255)	2 (60)	1 (30)	15 (375)
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖学	2 (60)			2 (60)
		生理学	2 (60)			2 (60)
		生化学	1 (30)			1 (30)
		栄養学		1 (30)		1 (30)
		バイオメカニクス		1 (15)		1 (15)
	疾病の成り立ちと 回復の促進	病理学	1 (30)			1 (30)
		疾病と治療Ⅰ		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療Ⅱ		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療Ⅲ		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療Ⅳ		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療Ⅴ		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療Ⅵ		1 (15)		1 (15)
		微生物学	1 (30)			1 (30)
	健康支援と 社会保障制度	薬理学		1 (30)		1 (30)
		リハビリテーション学		1 (30)		1 (30)
		福祉における援助	1 (15)			1 (15)
		公衆衛生学		1 (15)		1 (15)
		関係法規		1 (15)		1 (15)
		社会福祉論		1 (15)		1 (15)
		保健医療福祉論		1 (15)		1 (15)
		障害者福祉論		1 (15)		1 (15)
		医療と倫理			1 (15)	1 (15)
	小計		8 (225)	15 (270)	1 (15)	24 (510)
専門分野Ⅰ	基礎看護学					11 (330)
	基礎看護学Ⅰ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅱ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅲ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅳ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅴ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅵ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅶ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅷ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅸ		1 (30)			1 (30)
	基礎看護学Ⅹ			1 (30)		1 (30)
	リハビリテーション看護		1 (30)			1 (30)
	臨床実習					3 (135)
	基礎看護学Ⅰ実習		1 (45)			1 (45)
	基礎看護学Ⅱ実習		2 (90)			2 (90)
	小計		13 (435)	1 (30)	0 (0)	14 (465)

授業科目		単位数(時間数)			計
		第1学年	第2学年	第3学年	
専門分野Ⅱ	成人看護学				6 (165)
	成人看護学Ⅰ	1 (15)			1 (15)
	成人看護学Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅴ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅵ		1 (30)		1 (30)
	老年看護学				4 (105)
	老年看護学Ⅰ	1 (30)			1 (30)
	老年看護学Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	老年看護学Ⅲ		1 (15)		1 (15)
	老年看護学Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	小児看護学				4 (105)
	小児看護学Ⅰ	1 (30)			1 (30)
	小児看護学Ⅱ		1 (15)		1 (15)
	小児看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	小児看護学Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	母性看護学				4 (90)
	母性看護学Ⅰ		1 (15)		1 (15)
	母性看護学Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	母性看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	母性看護学Ⅳ		1 (15)		1 (15)
	精神看護学				4 (90)
	精神看護学Ⅰ	1 (30)			1 (30)
	精神看護学Ⅱ	1 (15)			1 (15)
	精神看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	精神看護学Ⅳ			1 (15)	1 (15)
	臨地実習				16 (720)
	成人看護学Ⅰ実習		2 (90)		2 (90)
	成人看護学Ⅱ実習		2 (90)		2 (90)
	成人看護学Ⅲ実習			2 (90)	2 (90)
	老年看護学Ⅰ実習	1 (45)			1 (45)
	老年看護学Ⅱ実習		1 (45)		1 (45)
	老年看護学Ⅲ実習			2 (90)	2 (90)
	小児看護学実習			2 (90)	2 (90)
	母性看護学実習			2 (90)	2 (90)
	精神看護学実習			2 (90)	2 (90)
	小計	6 (165)	21 (645)	11 (465)	38 (1275)
統合分野	在宅看護論				4 (90)
	在宅看護論Ⅰ		1 (15)		1 (15)
	在宅看護論Ⅱ		1 (15)		1 (15)
	在宅看護論Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	在宅看護論Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	看護の統合と実践				4 (120)
	看護の統合Ⅰ			1 (30)	1 (30)
	看護の統合Ⅱ			1 (30)	1 (30)
	看護の統合Ⅲ			1 (30)	1 (30)
	看護の統合Ⅳ			1 (30)	1 (30)
	臨地実習				4 (180)
	在宅看護論実習			2 (90)	2 (90)
	看護の統合と実践実習			2 (90)	2 (90)
	小計	0 (0)	4 (90)	8 (300)	12 (390)
合計		39 (1110)	43 (1095)	21 (810)	103 (3015)

イ 看護第二学科

授業科目		単位数(時間数)			
		第1学年	第2学年	第3学年	計
基礎分野	人間と生活・社会の理解	哲学と倫理学	1(30)		1(30)
		教育学	1(30)		1(30)
		心理学	1(30)		1(30)
		社会学	1(30)		1(30)
		人間関係論Ⅰ	1(15)		1(15)
		人間関係論Ⅱ		1(15)	1(15)
	科学的思考の基盤	物理学	1(30)		1(30)
		情報科学	1(30)		1(30)
		英語	1(30)		1(30)
		論理学	1(30)		1(30)
		小計	9(255)	1(15)	10(270)
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1(30)		1(30)
		解剖生理学Ⅱ	1(30)		1(30)
		生化学		1(30)	1(30)
		栄養学		1(15)	1(15)
		微生物学	1(15)		1(15)
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学		1(30)	1(30)
		病理学	1(15)		1(15)
		疾病と治療Ⅰ		1(30)	1(30)
		疾病と治療Ⅱ		1(30)	1(30)
		リハビリテーション学		1(30)	1(30)
	社会保険制度と健康支援	福祉における援助Ⅰ	1(30)		1(30)
		福祉における援助Ⅱ			
		保健医療福祉論		1(15)	1(15)
		医療と倫理		1(15)	1(15)
		障害者福祉論		1(15)	1(15)
		公衆衛生と関係法規		1(30)	1(30)
		小計	5(120)	9(210)	15(330)
専門分野Ⅰ	基礎看護学				8(225)
	基礎看護学Ⅰ	1(30)			1(30)
	基礎看護学Ⅱ	1(30)			1(30)
	基礎看護学Ⅲ	1(30)			1(30)
	基礎看護学Ⅳ	1(30)			1(30)
	基礎看護学Ⅴ	1(30)			1(30)
	基礎看護学Ⅵ	1(30)			1(30)
	基礎看護学Ⅶ	1(15)			1(15)
	リハビリテーション看護	1(30)			1(30)
	臨地実習				
	基礎看護学実習Ⅰ		1(45)		1(45)
	基礎看護学実習Ⅱ		1(45)		1(45)
	小計	8(225)	2(90)		10(315)
専門分野Ⅱ	成人看護学				3(90)
	成人看護学Ⅰ	1(30)			1(30)
	成人看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
	成人看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	老年看護学				3(90)
	老年看護学Ⅰ	1(30)			1(30)
	老年看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
	老年看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	小児看護学				
	小児看護学Ⅰ	1(15)			1(15)
	小児看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
	小児看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	母性看護学				
	母性看護学Ⅰ	1(15)			1(15)
	母性看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
	母性看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	精神看護学				3(75)
	精神看護学Ⅰ	1(15)			1(15)
	精神看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
	精神看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	臨地実習				10(450)
	成人看護学実習			2(90)	2(90)
	老年看護学実習			2(90)	2(90)
	小児看護学実習			2(90)	2(90)
	母性看護学実習			2(90)	2(90)
	精神看護学実習			2(90)	2(90)
	小計	5(105)	10(300)	10(450)	25(855)
統合分野	在宅看護論				3(90)
	在宅看護論Ⅰ		1(30)		1(30)
	在宅看護論Ⅱ		1(30)		1(30)
	在宅看護論Ⅲ		1(30)		1(30)
	看護の統合と実践				4(120)
	看護の統合Ⅰ			1(30)	1(30)
	看護の統合Ⅱ		1(30)		1(30)
	看護の統合Ⅲ			1(30)	1(30)
	看護の統合Ⅳ			1(30)	1(30)
	臨地実習				4(180)
	在宅看護論実習			2(90)	2(90)
	看護の統合実習			2(90)	2(90)
	小計		4(120)	7(270)	11(390)
合計		27(705)	25(720)	19(785)	71(2190)

(3) 講師・専任教員の状況

(2020年3月31日現在)

区 分		人数	備考
看護第一学科	外部講師	57人	
	内部講師	32人	
	専任教員	20人	
	計	109人	
看護第二学科	外部講師	42人	
	内部講師	25人	
	専任教員	7人	
	計	74人	
合 計		183人	

※ 内部講師とは当事業団の職員

(4) 実習施設状況

(施設)

区分		施設区分										合計
学科	領域	病 院	介護老人 福祉施設	訪問看護 ステーション	診療所・ 助産所	保育所・ 保育園	産業保健 推進センター	総合健診 センター	地域作 業所	社会復 帰施設	福祉型障 害児入所 施設	
看護第一学科	基礎	5										5
	成人	5										5
	老年	4	18									22
	小児	3				10					2	15
	母性	2			2							4
	精神	1										1
	在宅			13								13
	統合	2										2
	計	22	18	13	2	9	0	0	0	0	2	76
看護第二学科	基礎	2										2
	成人	1					1	1				3
	老年	2										2
	小児	3				2						12
	母性	1			7							8
	精神	1							4	1		6
	在宅		2	5	1							10
	統合	2										2
	計	12	2	5	8	9	1	1	4	1	0	48

(5) 授業評価活動

魅力ある学校づくりのために、質の高い授業が展開できることを目的として、以下の5点を目標に掲げ平成17年から授業評価に取り組んでいる。

ア 授業に対する学生の取り組みと満足度を知り、授業評価を取り入れ教育目標を達成すること。

イ 学生の能力に応じた学習への動機づけとすること。

ウ 学生の評価を得ることで、授業の改善に活かすこと。

エ 他の教員、職員から評価を得ることで、教育力の向上に役立てること。

オ 臨地実習指導者との協働体制を整えられること。

授業評価の状況

区分	科目	講師の評価	専任教員の評価	実習評価
看護第一学科	基礎分野	13	—	—
	専門基礎分野	9	—	—
	専門分野	2	20	93
	計	24	20	93
看護第二学科	基礎分野	1	—	—
	専門基礎分野	6	—	—
	専門分野	2	7	45
	計	9	7	45
合計		33	27	138

授業評価の方法

※ 1単位以上の講義を担当している講師・専任教員を対象に実施

(6) 授業参観活動（参観回数）

看護第一学科	39
看護第二学科	20
合計	59

(7)カリキュラム評価

ア.看護第一学科

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
基礎分野	科学的思考の基礎	1(30)	修得状況 未修得者あり	採点結果から判断すると、(1)授業にて解いた問題ができていない(2)応用に関しては正答率はかなり低い。	(3)そのためには、もう一度やり直すテスト形式の演習等の工夫が必要。(4)教科書の説明部分が長いので要点をうまく表現する工夫必要(5)もう一歩、先へ進めること。以上の反省が考えられます。
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.42 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.55 この科目は総合的に満足した内容であった 4.49		
	体育	1(30)	修得状況 全員修得	「この科目は総合的に満足した内容であった」が「当てはまらない」1名、「あまり当てはまらない」2名と83名中3名約4%の受講学生さんにとっては、授業の必要性を感じたり、体験が心や身体に響くことはなかった。私の指導力不足を反省したいと思う。	体育の授業目標として体力維持・増進、レクを体験することで、何かを感じてほしいということだった。専門知識は大切であり、それを活かすには体験して感じる大切である。本を眺む課題が出されていたが、取り組みには個々の差があるため、今後も課題であるとする。
			出席率 (%) 99.2		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.59 この科目は総合的に満足した内容であった 4.63		
	化学	1(30)	修得状況 全員修得	各質問事項に対して、「やや当てはまる」「当てはまる」を合計した数値は質問1(学習目標の達成度)では75%、質問2(教科書の活用)では、66%、質問3(満足度)では87%であった。当該科目の学習目標は、科学的な考え方や化学の基礎知識を学ぶ、さらにナースとして必要な化学の常識を身につけることであるが、75%の学生がその目標を達成したこと、講義内容について大多数の者が満足したことを素直に喜ぶ。なお、教科書の活用についてはレジュメ(プリント)を中心に授業を進め、教科書は時折参照したために活用度は66%とやや低かった。次年度はもう少し教科書を利用することにした。	当該科目(「化学」)のシラバスは、標準的な一般の化学教科書に沿った授業内容で作成している。しかし、化学は看護師試験の対象科目ではないが、もって看護師のための化学に特化し、いわば「ベッドサイドで役立つ化学」の観点から、将来看護師になった時に化学の知識は必要なんだと思わせるようなシラバスにシフトするべきと感じている。というのも、入学生のレベルが年々少しずつ低下し、一般的な化学の講義では1/4ぐらいの学生が授業内容を理解できない状況となりつつあるからである。
			出席率 (%) 99.1		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 3.92 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.81 この科目は総合的に満足した内容であった 4.22		
	情報科学	1(30)	修得状況 全員修得	パワーポイントの発表について、今年度はカリキュラムの順番を昨年度までと変更(Word→PowerPoint→Excel)としたことにより、作成する時間に余裕があったことで完成度の高いスライドが多数ありました。授業内で補足資料として用意したフリーのイラストをうまく活用している方が多数いました。一方、ざりざりまで作成に取り掛からなかったと思われるスライドもいくつか見られ、残念でした。	コメントなし
			出席率 (%) 99.2		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.42 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.43 この科目は総合的に満足した内容であった 4.37		
	英語Ⅰ	1(30)	修得状況 未修得者あり	カリキュラム通りに達成できたと思います。残念ながら努力にも関わらず1人再履修になりましたが、頑張っただけだと思います。授業内容に学生達が興味をもって取り組むことができてよかったと思います。ただ語学は授業が終われば終わりのものではないです。自学自習を続けて実践で使える看護師になってほしいと思います。	コメントなし
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.34 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.6 この科目は総合的に満足した内容であった 4.62		
	英語Ⅱ	1(30)	修得状況 未修得者あり	概ね、目標は達成している生徒さんが多いと感じている。不得意科目であった英語を「看護英語」としてとらえた時に英語を身近に感じ意欲を持ってこちらの指導通りに実践してくれた生徒さんが多く、大変嬉しく頼もしく感じている。	「学習目標が達成できた」の項目は個々人の英語技能の修得度合いにより評価が難しいと感じる。(授業中だけで修得できる技能ではなく日常的な努力を要する科目なので)
			出席率 (%) 98.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.27 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.44 この科目は総合的に満足した内容であった 4.33		
人間と生活社会の理解	論理学	1(15)	修得状況 全員修得	自らの思考を読み解く過程において、意識的に論理学的思考法を用いることができるようなトレーニングを今後取り入れ、実践することによって、学びの実感を得ることができるのではないかと考えています。今年度は、このような取り組みを充分に行うことができなかったにもかかわらず、テスト結果は良好であったと思います。	コメントなし
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.4 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.72 この科目は総合的に満足した内容であった 4.47		
	社会学	1(30)	修得状況 全員修得	「相対的貧困の問題」や「大きな政府、小さな政府の問題」は聞きなれない話題で、苦戦気味の様子でした。試験では、セールのストークはかなり違う現実理解が通っていました。自治体や地域の健康福祉の運動については初めてのテーマのようでしたが、ポイントを捉えている人もかなりありました。	社会現象や日常生活を社会的な視点から解釈し、社会学的な見方、考え方を身に付けられるように日々刺激し目標が修得できるようにしていくことが課題である。
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.06 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.55 この科目は総合的に満足した内容であった 4.15		
	ボランティア論	1(15)	修得状況 全員修得	全体としては良い結果(成績)であった。ただし、数名の学生は勉強の仕方、試験の準備について十分に理解できていない者がいた。個別指導が必要かと思われた。尚、授業回数が7回のため学習内容を深める時間が不足していた面もあるので、次年度以降はさらに工夫したい。	学習内容を深める時間が不足している点について工夫する。
			出席率 (%) 99.4		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 3.58 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.06 この科目は総合的に満足した内容であった 3.76		
	教育学	1(30)	修得状況 全員修得	「生きること、命について認識を深められた」という評価の一方で「SNS社会についてテキストは理解していない、古すぎる」といった評価があった。IT・携帯によって言語が本来もっていた「自分を発達させ、人々を真意結びつける力」がどのように低下しているか考えさせたが、一部の学生にとって自分が否定されているという感じ方になっていた。	「学ぶ」ということは自らが自分を変え創っていくこと、ということの理解を深めるために「考えること」を重視した講義内容、方法への工夫が必要
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.1 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.99 この科目は総合的に満足した内容であった 4.18		
	心理学	1(30)	修得状況 未修得者あり	人間の心の仕組みや自己理解・他者理解について理解する科目である。毎回の講義終了後に確認テストを実施し、理解が促されるように取り組みを実施した。また、講義の始めに講義内容について質問時間を確保したことが、学生の疑問が解決され授業評価の結果にある学習目標、満足した内容につながったと考える。	配布資料を中心に進めていたため、次年度はテキストを活用できるようにしていく。定期試験において、レポート提出としたが、学生の認識などに大きな差があったため、筆記試験なども視野に入れて次年度組み立てを実施していく。
			出席率 (%) 98.9		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.45 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.35 この科目は総合的に満足した内容であった 4.58		
哲学	1(15)	1(15)	修得状況 全員修得	1.授業評価:コメントの通り 2.テスト:45分から30分へ縮小し実施時間はやや乱暴かと思う。試験後学生が「抗議」があった。本科目は択一式ではない。7回の受講の学習成果を前提とする記述式である。出題者も戸惑った分結果も例年になく未消化を感じた。学校側の善処を期待したい。 3.出欠:特になし	「哲学・倫理学などの授業を通し人間を科学では捉える方法を学習し」と「手法」などに記され基礎分野の大切を唱うが「国試第一」の関心事は「過去問」「傾向」「対策」にあるらしい。講への興味関心、さらなる工夫を考えたい。
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 3.29 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.82 この科目は総合的に満足した内容であった 3.45		

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
専門基礎分野	倫理学	1(15)	修得状況 全員修得	1.総じて好意的な「評価」と思う。 2.本校は「カリキュラム構築」にある通り「看護師の基礎教育」の科目であることに照らし今後も倫理学の関心を高めべく努めたい。 3.授業では具体的な事例を数多く引くが、とくに「生命倫理」に関する事例を中心に「考える機会」を提供したい(「ディベート教室」)	試験結果から、学習者がみられる。単に抽象論ではなく具体的な事象から本質へと考えることができています。
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.83 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.64 この科目は総合的に満足した内容であった 3.87	
	人間関係論Ⅰ	1(15)	修得状況 全員修得	今年度より宿泊研修ではなく、外部講師におけるチーム力を高めるコミュニケーション技術のトレーニングやその実践活動として外部施設で野外炊飯等を行いました。その体験の中から「自分を知る」「他者を知る」「組織的活動の視点でコミュニケーションのあり方を考える」について学びを深められたレポート内容であった。	学びのレポートの基本的文章能力が、整っていない方が3割ほどいた。スマートホンでラインを送るような改行をしている方など、文章表現法の講師と連動して学修できるよう依頼していったが、引き続き支援が必要である。教科書は使用未、満足度はアンケート内容が変更前の為実施されなかったため、次年度はとっていく。
			出席率 (%) 99.9		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.59 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.68 この科目は総合的に満足した内容であった なし	
	人間関係論Ⅱ	1(30)	修得状況 全員修得	コメントなし	コメントなし
			出席率 (%) 99.9		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.09 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.33 この科目は総合的に満足した内容であった 3.83	
	解剖学	2(60)	修得状況 未修得者あり	人間の心臓に近い豚の心臓の解剖演習を取り入れ立体的な理解ができるようにしていたが、解剖演習に消極的な参加状況が目立った。カラススケッチ解剖学についても、学習力に課題のある学生ほどカラススケッチを実施することが難しく支援を要した。	現在の学生のレディネスを鑑みると、カラススケッチ解剖学の効果に課題が残った。授業後に練習問題を出すなど工夫していく、また、解剖演習については病態などを学習した後何らかの方略で深い理解につながる学習方法の再検討が必要と思われる。
			出席率 (%) 99.3		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.44 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.41 この科目は総合的に満足した内容であった 3.23	
	生理学	2(60)	修得状況 未修得者あり	コメントなし	コメントなし
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.47 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.8 この科目は総合的に満足した内容であった 3.39	
	生化学	1(30)	修得状況 未修得者あり	平均点が60点ほどであり、多くの学生が60点未満の点数であった。一方、学生自身の達成度の平均は4.08であったことを考えると、ズレが生じていることがわかる。	本年度が1年目であり、学生が準備をする方向性にとまどいがあつた」とこと最終授業からテストまで1か月あいてしまったことなどが考えられる。問題のレベルをおとさずに試験の平均点があがるよう工夫していきたいと思っている。
			出席率 (%) 98.7		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.07 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4 この科目は総合的に満足した内容であった 4.44	
	栄養学	1(30)	修得状況 全員修得	学生は授業を欠席することなく、真面目に授業を受けていた。プリントの穴埋めもきちんと行っていた。問題集を配布したがきちんと取り組んでいた。テストの成績は平均で約80点。昨年よりは低かった。しかし再試の学生はいなかった。授業評価で「学習目標は達成された」と考える学生が多い点から、達成されたと考える。	授業内容に沿った教科書がないためプリント資料で授業を行っているため教育課程と教科書と検討が必要である。
			出席率 (%) 97.7		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.07 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.84 この科目は総合的に満足した内容であった 4.14	
疾病の成り立ちと回復の促進	バイオメカニクス	1(15)	修得状況 未修得者あり	評価なし	評価なし
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
	病理学	1(30)	修得状況 未修得者あり	理解していない状況があると解剖整理、微生物学などとのつながりが見い出せず発問しても中々答えられない学生もいる。	進度や繋がりについて見出しつけていけるようにしていく必要がある。
			出席率 (%) 98.8		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.87 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.4 この科目は総合的に満足した内容であった 3.99	
	疾病と治療Ⅰ	1(15)	修得状況 未修得者あり	呼吸器と感染症について2名の講師による授業および試験となる。A評価とB評価は61.3%であり、4名の学生が再試験対象となり、2名がD評価であった。出席率が高い状況でも試験で点数が取れていない結果と学習目標の到達も3.58と低いことから、学習目標に到達するためには理解に繋げる学習が必要となる。	学生が理解につなげられるように理解状況を確認しながら、授業内容および自己学習を促し手行く必要がある。
			出席率 (%) 99.3		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.58 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.34 この科目は総合的に満足した内容であった 3.63	
	疾病と治療Ⅱ	1(15)	修得状況 未修得者あり	A評価・B評価の学生が93.8%であり、出席率も高い。循環器と血液疾患について2名の講師による授業および試験となり、関連性のある疾患についての科目となっていることもあり、高得点の試験結果となっており、学習目標の到達も4であった。その反面4名の学生が再試験対象となり理解に差が生じている。	今後も継続して知識として修得できるようシラバスに沿って授業内容を講師と調整を図り、学習目標が到達できるようにしていく必要がある。
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.94 この科目は総合的に満足した内容であった 4.2	
	疾病と治療Ⅲ	1(15)	修得状況 全員修得	100%の学生がA評価となっており、出席率も高い。消化器疾患と女性生殖器疾患について3名の講師による授業であり、試験は消化器内科・消化器外科の内容であり、授業評価も高く学習目標の到達につながっていると考え。	消化器疾患については試験により知識習得できている。しかし、女性生殖器疾患については知識習得の確認ができていない状況がある。シラバスに沿って、科目の学習目標が到達できるよう知識確認の方法を検討していく必要がある。
			出席率 (%) 99.5		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.42 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.39 この科目は総合的に満足した内容であった 4.46	
	疾病と治療Ⅳ	1(15)	修得状況 全員修得	絞られた講義項目と講義時間がマッチしているので教えが良かった。疾患については次年度も同様でよいのか吟味をお願いします。	解剖学の理解が不十分なため疾病の理解が困難な状況があったため、基本的な解剖整理の継続的な学習が必要である。授業においても理解が深まるような工夫が必要である。 神経・内分泌の講義の希望
			出席率 (%) 98.6		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.32 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.5 この科目は総合的に満足した内容であった 4.41	

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題	
疾病と治療	V	1(15)	修得状況	全員修得	腎・泌尿器系の内科と外科疾患と治療、緩和医療について3名の講師による授業であり、試験は腎・泌尿器系の内科と外科疾患と治療についてのみである。97.4%の学生がA・B評価であり、学習目標の到達も4.31と高く理解に繋がっていると考える。	今後も腎・泌尿器系の内科と外科をつなげて理解に繋げられるよう、関連付けたシラバスとしていく必要がある。また、緩和医療についての知識確認ができていないため、次年度は確認方法を検討していく必要がある。
			出席率 (%)	99.5		
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.31 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.23 この科目は総合的に満足した内容であった 4.33		
			内容がシラバス通りか	はい		
			修得状況	全員修得		
	VI	1(15)	出席率 (%)	99.3	今回は試験問題を比較的答えやすくなりましたが、点数の開きの大きな学生者がみられ残念でした。質問の日本語の内容が意味不明で解答できず。昨年のテスト問題が配布されている点を差し引いてもテストの採点結果が著しく偏っていたので講義内容が極めて難解であったということはないと思われる。	広範な内容を極めて限られた時間での授業であったため、教科書の内容が理解できていないと疾患の理解は難しいことが課題である。
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.09 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 4.14		
			内容がシラバス通りか	はい		
			修得状況	未修得者あり		
			出席率 (%)	98.7		
	微生物学	1(30)	出席率 (%)	98.7	授業教評価は2回目の講義時でかなり早いと思いました。授業科目評価の内容からは、学習目標、科目内容は概ね理解されたと思われる。出席状況は学校の管理の元、完璧に近いが、採点結果と結びつかず、熱心な学生が多いのに反して苦手科目になる学生が散見される。	微生物学は他科目に関連する事項も多いので、その度学びが深くなることを期待したい。
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.16 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.84 この科目は総合的に満足した内容であった 4.24		
			内容がシラバス通りか	はい		
			修得状況	未修得者あり		
			出席率 (%)	98		
薬理学	1(30)	出席率 (%)	98	薬理学は初めての内容であり、化学から生化学、解剖学など幅広い分野に関わり、またカタカナのオンパレードで催眠術のようであったのではないかと。試験結果から、非常に学習できている学生もあり、講義内容量、講義速度などを鑑みると感心した。学習目標は「薬理学に興味をもたせる」でしたが、講義・試験を終えての手応えとして「薬理学を叩き込む」でも十分に対応可能である。	今後は学習を継続し、関連性を発見することを期待したい。	
		授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.04 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.45 この科目は総合的に満足した内容であった 4.29			
		内容がシラバス通りか	はい			
		修得状況	全員修得			
		出席率 (%)	100			
リハビリテーション学	1(30)	出席率 (%)	100	人間のヒューマンイズムの観点からとらえ、障害を持つ人も持たない人間も共に生きることを目指し社会への統合をスムーズにするための概念とその方法が理解できるように、医師のみでなくセラピストによる講義により、成績もA・B評価合わせて92.4%であり、学習目標の達成も4.35と高く一致している。	本学の理念であるリハビリテーションの学びを深められることを期待したい。	
		授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.35 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.15 この科目は総合的に満足した内容であった 4.41			
		内容がシラバス通りか	はい			
		修得状況	全員修得			
		出席率 (%)	99.4			
健康支援と社会保障制度	福祉における援助	1(15)	出席率 (%)	99.4	テスト時間は30分なのに内容が多すぎるというような感想があった。テストは持ち込みでそれを見ればほとんどの事は書けるはずだが、復習していない覚えていることに対して答えをさがすには時間不足のため、この感想が出たのかと考える。	覚える必要はないが、個々の人の視野の広がりになればと思う。
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.65 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 2.98 この科目は総合的に満足した内容であった 3.21		
			内容がシラバス通りか	一部取り組めなかった。技術としての実技を優先したため抜けてしまった。		
			修得状況	未修得者あり		
			出席率 (%)	99.6		
	公衆衛生学	1(15)	出席率 (%)	99.6	公衆衛生学の対象は、患者のみならず健康人を含めた人口集団・地域社会である。看護師には医療チームの重要な担い手として、治療医学にとどまらず、予防医学、さらに社会福祉まで含めた広範な公衆衛生・地域保健活動の知識と実践が要請される。今後に期待する。	授業のコマ数が8コマであったため、後半の講義を少し急ぎすぎたことを反省する
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.32 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.41 この科目は総合的に満足した内容であった 4.42		
			内容がシラバス通りか	はい		
			修得状況	未修得者あり		
			出席率 (%)	99.7		
	関係法規	1(15)	出席率 (%)	99.7	テスト結果より比較的よくできていた。授業中の聴講態度も問題なく出席状況も良かった。	教科書について従来使用していた出版社の教科書が絶版となり、別の出版社にしたが、内容が少し詳しすぎたように感じた。
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.33 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.29 この科目は総合的に満足した内容であった 4.36		
			内容がシラバス通りか	はい		
			修得状況	全員修得		
			出席率 (%)	99.2		
社会福祉論	1(15)	出席率 (%)	99.2	教科書を基本として進めたが、説明が十分でなく余談に注目してしまった感があるため、今後は教科書に忠実に進めていきたい。シラバスの内容は日数を考えると多いと感じる。	科目の性質上、仕方ない部分もあるが、社会福祉に関しては必要科目として意識していなかった学生が半数いた。次年度は導入部分を丁寧に行っていく。	
		授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.23 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3 この科目は総合的に満足した内容であった 3.09			
		内容がシラバス通りか	はい			
		修得状況	全員修得			
		出席率 (%)	99.3			
保健医療福祉論	1(15)	出席率 (%)	99.3	目指している分野を考えると、興味関心が希薄な分野と思われる、それなりの評価。	他人作成シラバスは授業に眼界がある	
		授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.92 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.96 この科目は総合的に満足した内容であった 3.89			
		内容がシラバス通りか	他人作成シラバスは授業に眼界があるため、必要な内容を追加している			
		修得状況	全員修得			
		出席率 (%)	98.3			
障害者福祉論	1(15)	出席率 (%)	98.3	評価はほぼ良好であったと思われる。学生が障害福祉を身近なテーマとして感じるとともに、関心を抱きやすいように映像(ビデオ)や最新のニュース報道などを授業に取り入れた。その点は効果があったと思われる。	コメントなし	
		授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.19 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.9 この科目は総合的に満足した内容であった 4.28			
		内容がシラバス通りか	はい			
		修得状況	全員修得			
		出席率 (%)	99.5			
医療と倫理	1(15)	出席率 (%)	99.5	成績はB以上が87.4%であった。学習目標については、授業評価の結果からはほぼ達成できたといえるが、成績がC評価の学生との格差が大きい。3年次科目のため、臨地実習と並行しながら半年間にわたる授業であったが、授業間隔があくことのメリット・デメリットがあると考ええる。	倫理は基礎分野や基礎看護学および各看護学の中で既に学んでおり、3年次生として医療現場の倫理的課題についての体験を引き出す授業展開を目指した。しかし、倫理原則や倫理綱領といった基礎知識の再確認に時間を要すること、学生が自己の体験を授業でどれだけ開示できるかということについては課題である。	
		授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 4.06 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.36 この科目は総合的に満足した内容であった 3.98			
		内容がシラバス通りか	外部講師の時間数減に伴い、内容を一部変更した。			
		修得状況	未修得者あり			
		出席率 (%)	99.7			
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ	1(30)	出席率 (%)	99.7	終講試験の結果から、暗記のレベルの問題でも解けていない様子が見られ、看護師の2大業務やICNの看護の定義でさえ答えられない学生も多かった。定期試験80点以下の学生においては圧倒的に学習不足が考えられる。理解するのレベルで説明を求めたり、解釈を求めると、途端に正答率が下がり、国語力の弱さも影響している。	国語力の低下については、入学前や入学後もより登えていく必要がある。また、予習、復習を促した設問でさえ答えられていない状況を考えると、小テストをするなど、踏み込んだ介入が必要と考えた。看護師になる為の思考プロセスは今後の学習にも多く影響することから繰り返し反復学習ができるよう工夫する。
			授業評価	項目 平均点 学習目標が達成できた 3.42 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.57 この科目は総合的に満足した内容であった 3.39		
			内容がシラバス通りか	はい		
			修得状況	未修得者あり		
			出席率 (%)	99.7		

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
基礎看護学Ⅱ	1(30)		修得状況 未修得者あり	コミュニケーションについては、自分を知ることから始め、事例などを用いたグループワークにより、色々な人の考え方に触れる機会を作った。手洗い・個人防護具の使用がなぜ必要か、感染の基礎知識と合わせて考えられるような組立てをした。初めての演習がこの科目の基本となる手洗いであり、約7割の学生がB評価以上となっていることが、満足度の高さに影響したのではないかと考える。	グループワークでは、紙面上の事例であったため、モデル人形などを用いてよりリアルな臨床で遭遇する場面を設定していく必要があると考える。また、実習でなかなか患者と関わることができない学生も増えてきている状況から、コミュニケーションにて応用を学ぶことができるような組立が必要であると考える。
			出席率 (%) 99.3		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.4		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.4		
基礎看護学Ⅲ	1(30)		修得状況 全員修得	全体的に高い評価を得た。全項目で「あまりあてはまらない」「当てはまらない」と答えた学生が2～4名いた。実習室で講義を取り入れたことで、行った講義のことを実技として確認できるようにしたことが良い評価につながったと考える。	基本的なリネン類のたたみ方、ベッドメイキング等演習時間では習得不可能であり、授業ごと取り入れること、演習の繰り返しの必要性がある。技術到達度の活用、また学生自身が達成したと実感できるように、チェック項目を作成し、授業内でチェックできるようにする必要がある。
			出席率 (%) 98.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.37		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.49		
基礎看護学Ⅳ	1(30)		修得状況 全員修得	全体的に高い評価を得た。全項目で「あまりあてはまらない」「当てはまらない」と答えた学生が3～4名いた。演習中心の授業であり、実習室を使用した。身体を使う力、移動の原理原則に基づく技術など初めに行うことばかりであるが、学生全員が取り組めるよう配慮した。しかし、技術と知識がつながっておらず、O評価が多くなっていると考え。	演習中に覚えておく必要がある根拠などを声に出す機会を設け、技術到達度の活用、そしてその知識が運動していることを振り返られるよう授業の中で実施していくことが必要である。
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.14		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.29		
基礎看護学Ⅴ	1(30)		修得状況 全員修得	全体的に高い評価を得た。「当てはまらない」と答えた学生はなかったが、「あまり当てはまらない」は2～3名いた。A・B評価が60%を超えている。授業内容の理解ができていない中、BMIなどの計算や数値の理解が不十分な学生が多く、成績に影響していると考える。	学習目標達成状況について、学生が自ら達成に向けて行動ができるように、目標や達成に向けての課題などの確認を定期的に行うことが課題である。
			出席率 (%) 98.6		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.18		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.35		
基礎看護学Ⅵ	1(30)		修得状況 全員修得	単純な暗記にならず、原理原則を理解できるように「発表をする」「記録をする」「意味を伝え合う」ことを毎回に実施した。その結果、全体的に高い評価を得たが、その中で、学習目標が達成できた項目において、「どちらとも言いえない」と回答した学生が7名いた。	達成すべき目標について誰もが理解し、それに向かい行動ができるよう説明を加える必要がある。加えて、自己評価をタイムリーに実施する時間を授業中に持たないことも課題である。
			出席率 (%) 99.1		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.5		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.67		
基礎看護学Ⅶ	1(30)		修得状況 全員修得	フィジカルイグザミネーションで得たデータをアセスメントできる知識を身に付けるため、解剖生理学の授業内容を想起しながら、授業の展開を行った。その結果、概ね高い評価を得た。その中で、学習目標が達成できた項目において、「どちらとも言いえない」と回答した学生が5名いた。また、A評価が50%程度であった。	A評価をとれる学生を増やすためには、解剖生理学の理解が不十分であり、強化が必要である。また、学生自身が向上心をもって学習できるように、到達の度合いを行動レベルで示し、達成度を学生自身が判断できるように改善していくことが課題である。
			出席率 (%) 98.9		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.49		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.69		
基礎看護学Ⅷ	1(30)		修得状況 未修得者あり	急性期～終末期の学習に関しては、DVDなどを用いて学生が患者像をイメージできるようにした。痛み、呼吸困難などの症状の看護については、自分の経験や身近な人のから想像したり考えたりできるような組み立てとし、グループワークなどで多くの人の考えに触れる機会を作った。満足度は高かったがB評価以上の学生が半数であったことから、知識を身につけるために組立てを改善する必要がある。	痛み、呼吸困難などの症状に關しての事前学習ノートの活用方法について検討していく必要がある。臨床で実際に会える患者さんの症状の観察、アセスメント、そこからの看護に繋げる必要があるため、臨床を想定した場面設定などリアリティを追求し、実践的な看護を学ぶことができるような工夫が課題と考える。
			出席率 (%) 95.8		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.3		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.48		
基礎看護学Ⅸ	1(30)		修得状況 未修得者あり	授業評価3点台であるが、A評価は50%を超えている。アセスメントなど達成感が得られなかったが、授業内容の理解はできていると考える。	事例を元にした看護展開であったため、患者のつらい状況などイメージしきれなかった。その中でどのような援助を行うのか、患者の状況・反応などからのアセスメントが十分に行えなかった。よりイメージができるような工夫が必要になると考える。
			出席率 (%) 97.1		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 3.72		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.67		
基礎看護学Ⅹ	1(30)		修得状況 未修得者あり	と薬について、内服薬や注射法など、講義から導入し、演習を実施する組み立てとした。針を扱う演習については、教員1人が約10名の学生を順番に見ていく形をとった。演習の中では、針刺し事故など医療安全についても考える機会を作った。満足度は高かったが、約2割の学生がC、D評価となっているため、知識を身につけるための教授方法の改善が必要であると考える。	注射法の角度や針のサイズなど国家試験でも技術の数値に関する問題が出題されているため、正しい手順など反復して身体で覚えられよう演習をしていく必要がある。演習が多い授業であり、針を扱う演習については10人の学生を1人の教員が担当する形態とした。効果的に学習する環境としては、教員数を増やしたり、学生がすぐ質問できるような近くで教員がデモンストレーションを実施するなど、環境の工夫が課題と考える。
			出席率 (%) 96.2		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.17		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.36		
リハビリテーション看護	1(30)		修得状況 未修得者あり	評価3後半を得られたが、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」がそれぞれの項目に2～10名いる。A評価が12.9%、B評価は32.9%で、両方を合わせても50%を下回る。これは、目標達成や満足感が得られたが、授業内容理解までには至っていないことがいえる。授業者が伝えた内容と学生が重要と捉えた内容に差が生じていると考える。	外部講師を含め、5名で科目を担当している。外部講師と調整を行い授業をいたした。しかし、その内容を専任教員の授業時につなげるように話すことが不十分であった。授業内でどこを注目させるのか工夫を行う必要がある。
			出席率 (%) 97.1		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 3.74		
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.72		
基礎看護学Ⅰ実習	1(45)		修得状況 全員修得	実習前の導入で、実習のイメージがもてるように展開を行った。また、学生個々の特徴を全教員で共有し、個別対応の必要な学生を把握してから実習に臨んだ。その結果、総合的に達成度の高い評価を得られた。専門的技術の習得に関しては、「当てはまる」と答えた学生が、60%を下回っていた結果、平均点が4.41であり、やや低くなっている。	初めての实習であり、病院のイメージはできても、実習でなんの技術を実践するのか、また、何をもちって達成と考えるのかについてイメージがしにくかったのではないかと推測でき、この点についてオリエンテーションの強化、および、授業との連携を強化する。
			出席率 (%) 99.6		
			授業評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.55		
			学習目標とその必要性が理解しやすい実習であった 4.68		

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
基礎看護学Ⅱ実習	2(90)	修得状況	未修得者あり	総合的に達成度の高い評価を得られた。「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が各項目で1～3名いる。	患者の情報を収集・分析し、患者に合った援助計画を立てる実習であり、学習した内容をどう関わりで反映したいのか、どのように記録をしたのか戸惑いながらの実習であった。授業で演習は行っていたが、患者のイメージが不十分であったと考える。実習前オリエンテーション、ゼミの活用、授業でのシミュレーションを行う。
	出席率 (%)	99.6			
成人看護学Ⅰ	1(15)	修得状況	全員修得	成人看護概論のため、様々な項目や定義の理解が必要であった。今までの時代背景などを追加しながら行った。最新のデータを用いて行った。今年度より小テストを行ったが、単元毎の理解の習得となり、理解度を確認することができた。	今後も今までの時代背景や成人期の特徴を捉え、最新のデータを用いて実施していく。小テストも継続し、学習効果を図る。
	出席率 (%)	99.5			
成人看護学Ⅱ	1(30)	修得状況	全員修得	教員の体調不良により1回自己学習としたことで一部講義内で演習を実施できない事象が発生した。行えなかった演習内容は、別日で調整を行い、最終的には実施した。技試験平均点81.3点の中2名、筆記試験84.2点中2名ずつ80点未満がいたが、合算のためD評価とはならなかった。この2点が、学習目標の達成度や満足度が低い結果に繋がっていると考える。	実技試験・筆記試験ともに実力を磨いていくためには、難易度を上げ、平均70点後半になる程度を目指し、再試験対象者が実力をしっかり再評価できるようにしていく。全体的に授業評価が低いことから、学生の満足度も上がるよう、学習目標達成へ向けた授業内容、組み立てを改善していく。
	出席率 (%)	98.3			
成人看護学Ⅲ	1(30)	修得状況	全員修得	5名の外部講師と1名の専任教員で授業を担当。科目評価では教科書が使用されていないとのコメントや、外部講師では多数の資料を印刷していたことから教科書の活用が不十分であった。出席率は高値だが、学習目標の達成度や満足度は高くないため、外部講師と連携を図った授業構成を検討する必要があると考える。授業内容が検査・クリティカルケア・呼吸器・血液・肝・循環器疾患など関連性が低い科目となっている。	複数の担当者のいる科目の授業展開において、学生にとって関連性のある学びが得られるよう講師との調整を図る必要がある。また、授業内容を振り替える際に教科書に拠るよう、教科書の活用を外部講師に依頼していく。
	出席率 (%)	98.8			
成人看護学Ⅳ	1(30)	修得状況	全員修得	回復期の概要学習後、脊髄損傷、変形性関節症、高次脳機能障害の学習をした。各疾患や看護を学習する中で、患者のイメージ化を図るために、患者の映像を取り入れた。事例設定を行い、その対象を想定した演習をすることでより看護をイメージ化することができた。その後、家族を支える看護を行うことで、患者像を深めながら家族への看護を考えたことができた。3回の授業で演習を行った。	回復期とリハビリテーション期を含めた概要を学習し、成人期の回復期とはについて深めていく。また、事例展開やグループワークを通してアセスメント能力を高めていく。その他は継続していく。
	出席率 (%)	99.5			
成人看護学Ⅴ	1(30)	修得状況	全員修得	1年次科目の再履修者が複数名いたため、出席率は低めであった。糖尿病患者の事例を中心とした看護過程を学習する内容であり、一貫した内容を学習できる科目であった。学習目標の達成度は中央値とほぼ同等であるが、満足度が高く、成績のA評価が約半数であった。技術演習ではシリンジを使用する皮下注射が実施できなかった対策を検討する必要がある。	学習目標が達成できる授業構成へと改善していく必要がある。インスリン皮下注射はペン型が主流であるため優先的に実施している。シリンジを使用する皮下注射に関しては、インスリン用のシリンジの特徴を提示することとし、シリンジでのインスリン皮下注射は実施しない。
	出席率 (%)	97.5			
成人看護学Ⅵ	1(30)	修得状況	未修得者あり	教科書の活用に関して、外部講師においては独自の資料を講義で使用していたことが低めであった原因と考えられる。非がん疾患患者の事例からエンドオブ・ライフケアについてグループワークで互いの意見を交換し合うことで対象や家族の身体的苦痛、精神的苦痛とは何か、その人らしく生きることにして成人期の発達課題も踏まえながら捉え、他職種と連携し支えていくことの必要性が学べていた。	エンドオブ・ライフにある対象に遭遇した経験がない学生が多く、また、授業科目評価結果ではグループワークによる事例検討に対して何が正解なのか分からずに授業を終えている学生もおり高い満足度とはいえない結果となった。今後は学生にとってエンドオブ・ライフケアについての学びが最終的に満足できるような授業を検討する必要がある。
	出席率 (%)	97.6			
成人看護学Ⅰ実習	2(90)	修得状況	未修得者あり	実習での目標や学習課題を提示し、実習に臨んだ。実習を通して時間管理や情報共有の重要性を学び、実践を積み重ねることができた。カンファレンスや学びの会を通して、学んだことを言語化し、表現する力の成長にも繋がった。技術面では個別性を踏まえ、安全・安楽を考慮した実践が行えた。	学習面では、解剖生理から病態の学習ができるよう支援を継続していく。また技術面でも、安全・安楽を考慮した実践を行えるよう、次の実習へ向けてさらに学習・技術とともに学内の演習を積み重ね、実践していきたい。
	出席率 (%)	99.9			
成人看護学Ⅱ実習	2(90)	修得状況	未修得者あり	実習での目標や学習課題を提示し、実習に臨んだ。実習を通して時間管理や情報共有の重要性を学び、実践を積み重ねることができた。カンファレンスや学びの会を通して、学んだことを言語化し、表現する力の成長にも繋がった。技術面では個別性を踏まえ、安全・安楽を考慮した実践が行えた。個別性の関わり方や退院に向けた支援を行えた学生もあり、専門的知識や技術が身につけている。	学習面では、解剖生理から病態の学習ができるよう支援を継続していく。また技術面でも、安全・安楽を考慮した実践を行えるよう、3年生の実習へ向けてさらに学習・技術とともに学内の演習を積み重ね、実践していきたい。
	出席率 (%)	99.1			
成人看護学Ⅲ実習	2(90)	修得状況	全員修得	成人期の発達課題を踏まえて対象のこれまでの生活状況や役割、大切にしているものに対する理解に努められていた。対象が障害を抱え生活を再構築しているよう障害受容の段階をアセスメントし、患者と共に目標を決め患者に必要な日常生活援助を日々計画立案・実践できる能力を育むことができた。実践により患者のADLの維持・向上が見られたことや、病棟カンファレンスに学生の意見が反映され患者の看護を変える経験ができ、実習の満足に繋がっていた。	学習面においては、解剖生理、病態の理解に支援を要する学生もあり、知識を踏まえて実践に繋がれるよう確認が必要である。技術面においては、実習前ゼミから病棟で行われる頻度の高い日常生活援助技術および診療の補助技術の演習を充実させていた。しかし、臨地にて基本的な手技を確認する場面もあったため、今後も技術の向上ができる支援体制の構築が必要である。
	出席率 (%)	99.8			
老年看護学Ⅰ	1(30)	修得状況	未修得者あり	学習範囲が膨大のため、覚える内容も多く、テキストを効果的に使用できるように、レジメとの関連性を持ちながら授業展開をしたが、数名の学生からは、レジメの使用法の周知がなされていない状況も確認された。そのため、テキストとレジメの活用方法の周知を確実にしていく必要がある。また、テキストのみではイメージが不十分であるため、視覚的な授業資料の活用を増やしていく必要があると考える。	テキストの内容を読み進めるだけではイメージが不十分のため、視覚的な資料を活用した展開や、実際の体験を通して展開する必要性があると考えられる。また、生活体験が未熟なために生じている多くの影響があり、多方面で高齢者に寄り添うことが困難な状況にあるため、実体験を通じた授業展開の工夫を考えていく必要がある。
	出席率 (%)	97.8			

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
老年看護学Ⅱ	1(30)	修得状況	未修得者あり	全体的に高い評価となったが、どちらとも言えないおよびあまり当てはまらないと評価した学生もいた。学習範囲が膨大のため、テキストを読み進めながら重要箇所の確認などに留まった授業展開も多かったため、十分な満足に至らなかった可能性もある。	膨大な範囲であるため、テキストの詳細まで展開していくことは困難であるため、国家試験のポイントを押さえながら必要箇所を的確な理解に繋がるようにしていく必要がある。
			出席率 (%) 98		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.46 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.51 この科目は総合的に満足した内容であった 4.49		
老年看護学Ⅲ	1(15)	修得状況	全員修得	高齢者の疾病と障害の程度に応じた日常生活における老年看護について、講義とワークシートを活用し、テキストを中心とした講義・個人ワーク・グループワークを行った。科目試験も記述方式、論述方式を取り入れた。成績評価ではA・B評価が8割を超えているが、授業評価としては、高い評価とは言えない。	ワークシートを活用し、事前学習や自己学習をしたことで理解につながるような学習方法をとった。科目試験も記述方式、論述方式により知識の定着ができるようにしたが、不十分な学生が多く、科目の満足にもつながっていないため、シラバス内容が理解でき満足できるような指導方法が課題である。
			出席率 (%) 99.3		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.05 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.13 この科目は総合的に満足した内容であった 4.08		
老年看護学Ⅳ	1(30)	修得状況	未修得者あり	高齢者に特徴的な健康障害の病態・症状・検査・看護について学ぶこと、病態・状態に応じた看護の視点と看護過程ができるようになることの学習目標を到達できるように、事例による看護過程の展開、テキストを中心とした講義、個人ワーク、グループワークを行った。授業評価では総合的な満足は4.12であるが、成績結果は、D評価が22%であり理解に繋がらず成績に反映できていない。	再試者が11名(22%)であり、テキストに示されている正しい語句の理解や論述の理解にバラつきがあり、授業評価と成績結果が一致していない。科目の理解や総合的な満足にもつながるように指導方法や教材研究が課題である。
			出席率 (%) 98.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.01 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.13 この科目は総合的に満足した内容であった 4.12		
老年看護学Ⅰ実習	1(45)	修得状況	全員修得	3世代世帯の減少に伴い、実際に高齢者と話す機会をもったことのない学生も多い。そのため、この実習で高齢者とのコミュニケーションの実際や、疾病に罹患した高齢者の実際を見ることができたため、以降の学習にイメージ化に繋げることができると考える。	教員の不在時間が多く、記録の十分な確認や評価の在り方が課題と考える。今年度は、クールの半ばでラウンドに行くことしたが、その効果について各担当教員からの情報収集ができていないため、次年度の継続可否かを判断していく必要がある。
			出席率 (%) 100		
			実習評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った なし 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった なし この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた なし この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた なし 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった なし		
老年看護学Ⅱ実習	1(45)	修得状況	全員修得	病院実習と施設実習を比較すると、精神面での負担が軽減される印象がある。そのため、全体的に満足感が高値であったと考える。また、記録用紙を簡素化していることにより、日々の記録の負担が軽減されていることも考えられるが、記録に重点がおかれていない、老年期にある人に本当の意味で寄り添うために必要な理解が不十分であると考えられる。	看護ケアの実際で不足が多い実習である。施設という機能性から、看護ケアの提供が少ないため、QOLやADLの観点に重点を置き、高齢者が生きていくことを支えるとは何かを深く考えていけるように学習を進めていく必要がある。
			出席率 (%) 99.6		
			実習評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.5 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.51 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.49 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.31 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.65		
老年看護学Ⅲ実習	2(90)	修得状況	全員修得	健康障害をもった老年期にある人および家族に対して加齢による変化および健康障害による問題を総合的に把握し、看護の実際を学ぶように3施設の各病棟、実習指導者と調整しながら実習に臨んだ。学生は専門的知識や技術を身につけることができ総合的に満足感が得られた実習であった。	急性期病院での実習であり、患者の状態把握、情報からノーズメントに指導を要する状況があり、看護過程について指導・方略に課題が残った。また、指導者、パートナー教員と調整しているが、「教員と指導者の指導に一貫性があった」とについて「当てはまる・やや当てはまる」が平均点4.15と最も低く、一貫した指導が必要である。
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.37 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.49 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.45 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.4 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.46		
小児看護学Ⅰ	1(30)	修得状況	未修得者あり	毎週、学習目標を示し授業を実施したことで、多くの学生が学習目標を達成することができたと考える。教科書を中心に授業を展開し、不足や最新情報を追加しながら授業を実施したことで、教科書の活用を促された学生が多かったと振り返る。小児と関わる機会が少ない学生が多い中でも、「小児が好き」と答える学生が多く、興味・関心を持って授業に臨むことができたと考えられる。	試験は専任教員と外部講師の合算であり、レポート評価も含まれる。レポートを提出し忘れて評価が下がった学生もあり、提出期限を守れるような指導とともに提出可能な時期を考える必要がある。次回授業内容を示し、教科書を読むことを促しても、事前学習している学生は少なく、より具体的な内容を示す必要もある。
			出席率 (%) 96.4		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.43 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.54 この科目は総合的に満足した内容であった 4.43		
小児看護学Ⅱ	1(15)	修得状況	未修得者あり	授業の関心の高さから、小児の疾患について学生が学習に取り組み、成績のA評価の多さにつながっていると考えられる。シラバス通り教科書を活用した内容で進められていたため教科書の活用点数が高い。テキストでは不足しているところは講師のプリントが追加されるなどの対応で学習が進められていたと考える。	シラバスの項目の多さから、他の領域と重なるところについて整理今年度は整理を行った。国家試験に出題されることが多い内容については小児看護学Ⅲ・Ⅳでも深められるように取り組む。
			出席率 (%) 98.6		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.1 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.43 この科目は総合的に満足した内容であった 4.23		
小児看護学Ⅲ	1(30)	修得状況	全員修得	演習を中心とした講義の後半は遊びの演習を実施している。講義の内容と演習を組み合わせて進めていることから学びを深めることができたと考えられる。また、遊びの演習を通して対象のこどもに関わり、触れ合うことで、子どもの理解を深められたと考える。授業を進める中で子どもと関わるのではなく、看護師として子どもを見る視点を考え、取り組むことができていたと考える。	演習日程を含めた説明事前に行っている。進行については教育課程に沿って大きな変更を行うことなく進められたが、事前学習の不足が目立った。今後の演習での課題提示に課題がある。学生が主体となっていけるよう事前課題、演習の進め方など今後検討していく。
			出席率 (%) 96.3		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.36 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.38 この科目は総合的に満足した内容であった 4.4		
小児看護学Ⅳ	1(30)	修得状況	未修得者あり	小児看護学実習に向けて、学生が展開をイメージし疾患を持つ患児の看護を考えられるよう講義を進めることができたと考えられる。シラバス通りの進行、演習日程に変更なく進んでいくことは学生の学習に混乱なく進められたと考える。他の領域で看護展開を経験していることから、大きな混乱はなく展開を進めることができた。	展開を進めているが、子どもの成長発達のところではイメージを広げることが難しく、紙面以上の展開での限界があった。身長と体重と発達、疾患と総合的に進めていくことで、学生自身に性格などの設定を考えてもらいグループワークも加えて進めていく必要があると考える。期も考えていく必要がある。
			出席率 (%) 98		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.14 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.28 この科目は総合的に満足した内容であった 4.25		
小児看護学実習	2(90)	修得状況	全員修得	指導者との連携をとっていくことを意識したため、学生を中心とした実習を進めることができていたと考える。未体験の技術が体験できるように病棟と調整し受け持ち以外の患児のケアを見学させてもらうなど調整ができたことが、技術の点に反映されていると考える。しかし、4日間の実習の中で看護過程の展開や技術の実施などを実施することは困難な状況もあったため他の平均点を比較して低い値となっていると考える。遠慮まで聞かれることが満足につながっていると考える。	技術体験の充実に向けてより病棟や施設との調整が必要となっている。体験させたいことや学生に実施させたい技術など厚労省の到達度をもとに調整していく。学生も積極的に技術に触れられるように病棟上の行動調整を行えるようにしていく。小児看護学の講義を実施している段階から、技術の実施を意識して進められるよう、到達度を上げていく。
			出席率 (%) 99.2		
			実習評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.74 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.74 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.72 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.69 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.84		

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題		
母性看護学 I	母性看護学 I	1(15)	修得状況	全員修得	初回の授業時、15時間での授業の進め方、進度によってはシラバスの内容を入れ替えること、試験はグループで作成したパンフレットと授業と自己学習で作成したノート(すべて自筆のもの)の持ち込みは可能であることのオリエンテーションを行った。また、概論ということで眠くならないよう、グループでのワークを多く取り入れ進めたが、一部の学生にとっては、「教えてもらえてない」と感じたようである。	「学習する」「学ぶ」ということの理解について、学生と十分なコンセンサスを得て進めていく必要があった。2年生で初めて学ぶことになる学問であり、その後のⅡ、Ⅲ、Ⅳにつながる科目として興味をもてる題材を提示していく。また、今年度初めて試みた母性看護の対象に焦点を当て、気になる題材を抽出し、「指導パンフレット」にして発表をするという体験は、「集中して授業に取り組めた」体験となっている。次年度も継続していく。	
			出席率 (%)	97.9			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4 4.41 3.91
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
母性看護学 II	母性看護学 II	1(30)	修得状況	未修得者あり	授業評価内容から質問できた項目についての評価が低く学習支援の面では改善点が必要であったと感じた。テストの採点結果から去年より採点が全体に低く学習目標の達成に努めることができなかったと感じ、改善していく必要があると感じた。	・授業評価の内容から質問できた項目についての評価が低く、学習支援の面での改善点が必要であった。 ・試験の採点結果は昨年より低く、学習目標の達成に努める必要がある。	
			出席率 (%)	96.8			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4.26 4.38 4.29
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
母性看護学 III	母性看護学 III	1(30)	修得状況	全員修得	パワーポイントと資料を中心とした授業で、図などがわかりやすく示されていたが、パワーポイント中心の授業となる傾向があった。	パワーポイントや資料と教科書を照らし合わせて確認できるような手立ても必要である。	
			出席率 (%)	99.2			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4.44 4.14 4.47
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
母性看護学 IV	母性看護学 IV	1(15)	修得状況	未修得者あり	今年度は妊娠期・分娩期・産褥期と変化していく対象者に合わせて母性看護学Ⅰ～Ⅲの知識を活用して看護過程展開をしていかなければならない事例とした。しかし、学生にとっては進度が早く感じ、理解を困難にした結果となった。3年次の実習で活用できるようにとチャレンジした内容であったが、2年生にとっては、産褥期に焦点を当てた方が分かりやすいということがわかった。	母性看護学Ⅰ～Ⅲの知識については、わかってはいる前提ではなく、一つ一つ確認しながら、産褥期の看護過程展開に当てて教授する方法に戻していく。課題は、臨床での受け持ちへのバリエーションに対応できないことが予想される。	
			出席率 (%)	98.6			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 2.95 3.43 2.94
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
母性看護学実習	母性看護学実習	2(90)	修得状況	全員修得	実習を通して対象者と関わることで、母性看護のあり方を学ぶことができた。実習場でのオリエンテーションは病院内の見学も兼ねており、実習の具体的なイメージにつながったと考えらる。実習の中で指導者や助産師から助言をいただき、専門的な知識・技術を体験する機会が多かったことが、先の評価につながったと考える。	オリエンテーションが実習につながるよう、検討していく。実習の中で専門的知識と技術が学べるよう、タイムリーな学習支援を行っていく。	
			出席率 (%)	99.8			
			実習評価	項目 オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった			平均点 3.91 4.35 4.40 4.40 4.39
			内容がシラバス通りか	はい			
精神看護学 I	精神看護学 I	1(30)	修得状況	未修得者あり	授業内容はシラバス通りに行うことができ、小テストも5回の実施、テキストを中心に進めたため、予習や復習を促すことができた。成績結果としては、小テストと筆記試験の合算であったが、C評価の学生が多かった。筆記試験において、選択問題は比較的解答できるが、文章で理解を問う問題については、課題があるため、今後も強化できるようにしていく。	小テストも実施しているが、1年次の5月から実施しているため、予習復習の習慣をつけられるようにしていく必要があると考える。また、単独型の試験形態でなく、事例を説明できるような表現力をつけていくことができるような発問型や記述をしていく講義を展開していく。	
			出席率 (%)	98.9			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4.07 4.35 4.24
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
精神看護学 II	精神看護学 II	1(15)	修得状況	全員修得	授業内容はシラバス通りに則りすめた。内容を自学自習をもとに構成し、グループディスカッション、全体共有などを通し、自ら講義内容を考察する体験を通して、精神看護の歴史と法律、サービス等の理解に努めた。小テストは2回行い授業進行に伴った内容の確認を行った。グループディスカッションでは、取り組みの積極姿勢に差がみられたため、フシリシートに努めたが、試験結果に反映している。	授業構築を見直し、自ら学んでいく体験学習を強化していく。また要点について復習の強化を行い、反復学習し、理解を深めるようにしていく。	
			出席率 (%)	99.3			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4.27 4.33 4.32
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
精神看護学 III	精神看護学 III	1(30)	修得状況	全員修得	テストは絶対に頭にに入れてほしい内容を中心に、作成し、そこは授業でも強調しているため、毎年平均点が高くなるが今年は100点が居なかったため、それが授業での教え方の問題なのか試験問題の問題なのかもう一度振り返る必要がある。(疾患) 授業内容、テストの出題等、国家試験を意識し、前年度と少し変更を行ったが、点数についてはかなりばらつきがあった。今年度はクラスによって授業を受ける姿勢、GWの取り組み姿勢が異なり同一内容でも反応や理解度が大きく異なった。講師側としても工夫が必要。(看護)	80点台と70点台の学生がわずかながら、いたのも次回への課題と考えている。(疾患) 眠ってしまう学生もあり、興味関心の持てる授業展開の方法が今後の課題と考える。(看護)	
			出席率 (%)	99.1			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4.37 3.8 4.63
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
精神看護学 IV	精神看護学 IV	1(15)	修得状況	全員修得	授業内容はシラバス通りに行うことができ、1回ごとにレポート記載を実施することで、理解を促すことができた。成績結果としては、レポート結果と試験結果の合算であるため、おおむねA評価であったが、筆記試験については差があった。そのため、学習目標や満足度に反映した可能性もある。	3年次の4月に講義があるため、実習に向けての知識や看護技術の習得ができることを目標としているが、国家試験への意識づけになってくるため、授業内容を踏まえながら教授していく必要があると考える。また、満足度の向上ができるためにも、授業改善ができるようにしていく。	
			出席率 (%)	99.7			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 4.16 4.2 4.18
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			
精神看護学実習	精神看護学実習	2(30)	修得状況	全員修得	実習評価から、全32項目において引きが4以上となっており、概ね当てはまる、やや当てはまるを選択している学生が70～80%の割合が多かった。実習評価においては、B評価が50%以上をしめており、実習指導を受けたが3週間を通して、患者理解をすることができていたと考える。	精神看護学において自分自身が治療の道具となるため、1週目に困惑している学生の姿もみられたが、受け持ち患者を通して、人を理解することの意味については捉えていたと考える。実習前の導入としてプロセスレコードの理解や患者理解についても強化したいと考える。また、疾患や治療、地域包括も視野にいれた実習体制への検討も行っていく必要がある。	
			出席率 (%)	99.9			
			実習評価	項目 オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった			平均点 4.33 4.26 4.31 4.31 4.4
			内容がシラバス通りか	はい			
在宅看護論 I	在宅看護論 I	1(15)	修得状況	全員修得	事例を基にしたグループワークや教室内でのロールプレイ、教員が対象者役となつての演習等、授業方法を工夫し、在宅療養生活の実践や在宅医療・看護の実践を学生が具体的にイメージできるように意識した。学生は在宅と医療施設の違いは分かるが、在宅看護の目的・意義などの理解は学生によって差が生じている現状がある。試験結果においてもA評価が7割と在宅看護論の他の科目と比べて低めであることからこのことが言えると考えらる。	地域包括ケアシステムの実際、地域の中での療養生活の在り方等、今後求められる在宅看護の在り方についての教授方法の工夫や、多職種連携について多職種の教育機関との協働等、を考えていく必要がある。	
			出席率 (%)	96.6			
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった			平均点 3.73 4.22 3.74
			内容がシラバス通りか 看護技術演習が予定通りできたか	はい なし			

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
在宅看護論Ⅱ	1(15)		修得状況 全員修得	地域包括ケアシステムという言葉を理解し内容を把握することが難しいという状況が見えた。このことから、用語の理解というよりも体験から考え、理解できるようにグループで意見交換し、他者の考え方に触れるようにワールドカフェ方式でアセスメントを学ぶ方法をとった。わからないことは教科書に戻り調べながら授業を行った。試験結果の割に授業評価が高まらないのは、目標や達成感を授業の中で意識化の不足と考える。	ケアプランを作成し、ケアプランについて理解する方向で授業を進めていたが、作成することが困難であると同時に、理解することの時間が取れないことが課題となった。今後は、作成に力を費やすよりも、ケアプランを読み解き介護保険や医療保険の制度と事例の全体像を理解することを授業で行ってほしい。用語の理解についての課題は、調べたことを学生間で共有する方向で授業を行い「わかった」と意識化してほしい。
			出席率 (%) 99.3		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.24 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.28 この科目は総合的に満足した内容であった 4.27		
在宅看護論Ⅲ	1(30)		修得状況 全員修得	今年度より事例を基にした技術演習を展開し在宅療養生活を具体的にイメージできるよう演習計画を立案した。また演習においても、実施後グループでの技術の振り返りの時間を持つなど学生の思考力を高められるような授業展開を試みた。試験において事例から看護を考える問題と多くした。試験結果から在宅生活における技術に関する知識を得ることができたと考える。	在宅実習室という限られた環境の中で効果的に演習を行うための授業方法について考えていく必要がある。また今後介護との連携も含めて技術習得に向けてシラバスやマトリックスの検討が必要である。
			出席率 (%) 97.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.15 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.11 この科目は総合的に満足した内容であった 4.15		
在宅看護論Ⅳ	1(30)		修得状況 未習得者あり	新カリキュラム導入に向けて、シミュレーションを取り入れてロールプレイでの演習を行った。シラバスの変更はなかったが、授業方法において事例展開から疾患の理解や制度、家族関係や在宅での生活、訪問看護としてのマナー等を含んだ学習内容でグループで学ぶ機会を増やしたことが学習効果につながる点があったと考える。	在宅実習室の限られた空間の中で全グループが同じ条件で話し合い、ロールプレイを行うことは、時間に制約がある中で時間管理することは難しかった。また、シミュレーションでグループの代表者に役割を持ってもらい映像で振り返ることは、利点も多いが学生によっては抵抗がある学生もいたことから、シラバスよりも方法に検討が必要であると考える。
			出席率 (%) 96.8		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.1 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.1 この科目は総合的に満足した内容であった 4		
在宅看護論実習	2(90)		修得状況 全員修得	機能訓練型デザイナー実習を開始したことにより、多職種連携の実践や地域包括ケアシステムの実際の学びにはつながっていると考えられる。実習の特徴として、施設スタッフ(指導者)がマンツーマンで学生指導を実施していることが、学びにつながっていると考えられる。技術においては、様々な訪問事例から在宅看護技術の実践を見学し、実践はできていないが他の実習では体験できない技術を学ぶことができていた。	同行実習において、担当する利用者が2～3回訪問できるケースが少ないため、学びの統合に課題が生じている。地域包括ケアシステムにおける在宅看護を学ぶためには、訪問回数や訪問事例に対して実習施設との調整が今以上に必要である。
			出席率 (%) 98.5		
			実習評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.68 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.23 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.37 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.37 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.41		
看護の統合と実践Ⅰ	1(30)		修得状況 全員修得	外部講師による災害時の現場での体験談から被災地の状況や被災者の理解、災害医療や看護の役割について理解できていた。トリアージ演習では限られた資源を備病者の状態に合わせて工夫し対応する能力や、チームとして組織的に行動することの必要性に気づくことができていた。国際看護においては、外部講師の現場での体験談から国際における看護について興味・関心を持つことができていた。	慢性疾患や在日外国人の患者が増加している現代において、災害時の要配慮者の救護に必要な知識や、あらゆる疾患の対象者に対応できる技術・態度の育成ができるシラバスの検討が必要である。
			出席率 (%) 99.7		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.34 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.38 この科目は総合的に満足した内容であった 4.38		
看護の統合Ⅱ	1(30)		修得状況 全員修得	看護研究の基礎的知識を問う試験の平均点が71点と低く、看護研究への取り組みや発表での評価で補うような結果となった。研究デザインへの理解の不足がみられた。また、知識を応用した問題で、問題を読み解く力や、文章表現力への弱さがみられた。研究発表への取り組みは真摯に取り組めたが、発表日に感染症で登校できない学生が1名おり、補習願兼受験資格認定願対応となった。	研究デザイン、特に聞いただけのものは理解が不足している。授業方法を工夫する。文章力が弱い。基礎的な知識の復習も兼ねたが、入学前課題など、1年次から積み重ねて力がつくようにカリキュラムを構築する必要がある。また、発表日に登校できない学生も考えられるため、時間数などを工夫する必要がある。
			出席率 (%) 98.9		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.34 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.02 この科目は総合的に満足した内容であった 4.08		
看護の統合Ⅲ	1(30)		修得状況 全員修得	看護管理は外部講師にテキスト書込み形式で授業展開していただいた。医療安全に関しても、昨年度以上に意識的にテキスト活用ができ、シラバス通りに進められた。3項目が全て4.5以上であるという結果から学習目標は概ね達成できたと考えている。	シラバス掲載の自学自修を促し、実習室中心での講義展開とした。講義・自学自修で学習した知識を即実践につなげ、思考を働かせる授業展開を目指したが、授業時間と学習内容のボリュームが多量とならないような授業構成が必要であった。学生の効果的な自学自修とその確認方法等の工夫を検討していく必要がある。
			出席率 (%) 99.1		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.58 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.55 この科目は総合的に満足した内容であった 4.63		
看護の統合Ⅳ	1(30)		修得状況 全員修得	試験の難易度が昨年度より低かった。しかし、授業中に何度も行った看護技術を問う問題であったため、成績に反映されたのではないかと考える。授業内容もシラバス通りであり、概ね授業の内容は良かったと思われる。	多重課題の内容は、成人期、老年期を対象にしたものであったが、統合分野であるため、全ての発達段階を取り入れ、それぞれの対象にあった看護技術の提供が出来る内容にしておく必要があった。試験に関しても、成人期だけでなく、全ての発達段階を対象にした看護技術を問う、難易度の高いものにしていく必要があったと考える。
			出席率 (%) 99.6		
			授業評価		
			学習目標が達成できた 4.28 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.37 この科目は総合的に満足した内容であった 4.37		
看護の統合と実践実習	2(90)		修得状況 全員修得	看護を行う上での知識・技術や管理的側面の学びだけでなく、将来看護の仕事に従事するものとしての基本的姿勢を学ぶ機会となった。また、責任を持って患者の支援をしていくことの重要性を学び、支援していくために必要なスキルとして、コミュニケーション能力の向上を課題として挙げることがみられた。実習開始時間が実習内容によって異なるため、学生が間違え欠課する事象が起こった。	実習内容、とくに実習開始時間について、学生が理解し間違えないよう、実習時間の検討を行い、わかりやすいオリエンテーションの工夫や実習時に学生が理解できているかの確認を行っていく。
			出席率 (%) 99.9		
			実習評価		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.17 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.23 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.26 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.13 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.26		

イ. 看護第二学科

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
基礎分野	人間関係論Ⅱ	1(30)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 100	90%以上の学生が学習目標を達成し、満足した内容であった。教科書の活用については評価が二分しており高評価の者は「授業内容の予想や理解に役立った」とし低評価の者は「授業で使わなかった」と評価している。授業の中で何度かテキストを読み理解するよう伝えていたが、課題となった。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	4.5 3.65 4.54	
			内容がシラバス通りか	はい	
専門基礎分野	生化学	1(30)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 99.6	カリキュラムは、要点をまとめた資料を渡し(予習)、講義の後各章ごとに「小テスト」を行い、その後解答と解説で理解を深める。さらに「復習とまとめ」を作成するように指導しました。予習→講義→小テスト→自主学習を行った方がたくさんおられたと、コメントやテストの結果よりうかがえ、大変よかったと思います。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	3.89 4.32 4.07	
			内容がシラバス通りか	はい	
	栄養学	1(15)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 99.9	①指定テキスト2冊のうち、1冊が授業に活用していないとの指摘があった。ページを紹介するに留まった。 ②病院食の実際の説明が薄かった。 ③板書が見づかった。 ④まとめの授業(最終授業)時、初めて聞く項目があった。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	4.45 4.41 4.66	
			内容がシラバス通りか	はい	
	疾病の成り立ちと回復の促進	1(30)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 100	学習目標を達成するためには、予習・復習が重要である。そのためには教科書の活用が大切であるが、講義で教科書の活用が少なかった。復習の教科書活用も含め、講師と相談し知識の定着に向け支援を続けていく。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	3.14 3.24 3.17	
			内容がシラバス通りか	はい	
	薬理学	1(30)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 99.2	看護を実践するために必要な基礎知識を学習する科目である。科目評価の結果、3.8以上の結果であることから、学習目標は概ね達成できたと考える。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	3.86 3.9 3.97	
			内容がシラバス通りか	はい	
	リハビリテーション	1(30)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 99.1	授業科目評価を見ると、覚えることの多さと講義速度の速さに苦労されたことがうかがえます。私の感想としても、「よくついて来てくれたな」というのが正直な気持ちですが、皆さんのポテンシャルも理解する事ができました。相当な負荷をかけても答えてくれる学生が揃っているという印象をうけています。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	3.33 4 3.56	
			内容がシラバス通りか	はい	
健康支援と社会保障制度	公衆衛生と関係法規	1(30)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 98.7	この科目は総合的に満足した内容であった」に対して「当てはまる」「やや当てはまる」と回答を86%得た。外部講師、専任教員合わせて8名で行う講義であった。様々な専門的なアプローチを学習し、演習で看護技術を体験することで、リハビリテーションにおける総合的な学びを得る機会になったと考える。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	3.87 3.37 4.13	
			内容がシラバス通りか	はい	
	障害者福祉論	1(15)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 99.1	授業科目評価調査票に記載されていた、授業の速度および教科書のスライドの関連性を加味しつつよりわかりやすい講義に調整していくことが課題として上がったが、学習目標の達成、満足度も高い授業であった。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	4.08 4.12 4.27	
			内容がシラバス通りか	はい	
	医療と倫理	1(15)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 99.1	伝えたい事項・考察してほしい事象を述べたが伝えきれなかったと思われる。事前に教授内容について伝えていただければさらに良かった。シラバスが自己作成できないことは疑問。
			授業評価	項目 学習目標が達成できた 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	
			平均点	3.07 3 3.1	
			内容がシラバス通りか	はい	
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ実習	1(45)	修得状況 出席率 (%)	全員修得 100	専門的技術を身につけることができた項目が低値であった。看護過程の実習であったため、初めは援助計画を立て技術提供を行った。看護技術提供に対する指導場面が少なかったことも考えられるため学生が身につけたと感じられるような指導が必要であった。
			実習評価	項目 オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 学習目標とその必要性が理解しやすい実習であった この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	
			平均点	4.53 4.47 4.33 4.10 4.47	
			内容がシラバス通りか	はい	

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
基礎看護学Ⅱ実習	2(90)	実習評価	修得状況 全員修得	実習グループで協力しながら安全な技術提供ができていた。技術だけでなく専門的知識を身につけるの項目も高値であった。技術提供には専門的知識が必要であることを理解できた結果ではないかと考える。取り組みも含めた満足度も4.7と高値であり基礎Ⅰより高くなっていた。	得られた知識を3年次の国家試験の学習や領域実習に活かしていく。
			出席率 (%) 100		
			項目 平均点		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.40 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.40 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.63 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.40 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.70		
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅱ	1(30)	修得状況 全員修得	成人看護学Ⅱは4人の講師が関わる科目であった。そのため、学んだ後性期～終末期に関する知識を統合していくことが必要となる。3年次の成人看護学実習に繋げられる様、支援を続けていきたい。アンケートの学習目標の達成の項目の結果や成績から、概ね学習目標の理解はできたと考える。	成人期における慢性期から終末期における科目だが4運動器障害、血液・造血系系に障害、がん患者の理解と緩和ケア、女性生殖系疾患患者の看護だけではない。今後の実習や国家試験対策として多岐にわたる慢性期疾患における看護についても学習支援していく必要がある。
			出席率 (%) 99.3		
			項目 平均点		
			学習目標が達成できた 3.87 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.67 この科目は総合的に満足した内容であった 4.00		
	成人看護学Ⅲ	1(30)	修得状況 全員修得	成人看護学Ⅲは、外部講師2名・専任教員1名で行った科目である。特に循環器機能障害、排泄機能障害では、認定看護師を講師に専門領域の最新の知識も合わせて学んだ。技術演習では、周手術期患者がイメージできるよう実際のドレーンやカテーテル類を使用し看護過程展開で立案した計画を実施した。グループで演習内容は異なっていたが全体で共有することにより理解を深めていった。急性期の看護過程展開は、事例をもとにチューター制で行った。	成人看護学Ⅲでは次年度の成人看護学実習での受け持ち患者とリンクできるように患者イメージを深めていく。今後の国家試験対策でも解剖生理、疾患、治療、看護の流れにそって理解を深めていく。
			出席率 (%) 99.1		
			項目 平均点		
			学習目標が達成できた 3.9 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.88 この科目は総合的に満足した内容であった 3.8		
	成人看護学実習	2(90)	修得状況 全員修得	成人看護学実習では地域実習(産業保健センター、透析センター、クリニック、健診センター)の学びを病棟での周手術期にある看護に繋げられる様、組み立てていった。退院までの術後経過は、学生が予想していたものよりも早く、2週間の実数期間で3名の患者を受け持った学生もいた。その中でも患者の生活再構築を意識し、個々の状況に合わせて看護実践をし退院指導まで行えた学生も多くいた。	急性期病棟の実習ではあるが周手術期以外の患者を受け持った学生も複数名いた。個々の受け持ち患者の疾患理解、各健康の段階にいる患者の理解がグループ全体の学びとなるようにゼミ時間を活用していく。また成人看護学は国家試験の学習にもつなげていく。
			出席率 (%) 99.8		
			項目 平均点		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.73 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.81 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.73 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.73 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.58		
老年看護学	老年看護学Ⅱ	1(30)	修得状況 全員修得	老年看護学Ⅱは3人の講師が関わる科目である。そのため、連携を必要とする科目であるが、アンケートの学習目標の達成の項目の結果や成績から、概ね学習目標の理解はできたと考える。特に感覚器は、今後学ぶ機会が少ない分野であるため、老年看護学Ⅲや実習において理解が深められるように支援を続けていきたい。	教科書の活用が、3.57と低い。各講師が作成した資料に基づき授業をしているためと考える。講師によっては一度も教科書を使用しなかった講師もあるため、学生が学習の継続ができるように教科書を活用できる授業づくりを行ってきたい。
			出席率 (%) 99.6		
			項目 平均点		
			学習目標が達成できた 4.27 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.57 この科目は総合的に満足した内容であった 4.43		
	老年看護学Ⅲ	1(30)	修得状況 全員修得	老年看護学Ⅲは、高齢者の健康状態の理解と健康障害を持つ高齢者の看護実践を学ぶ科目である。授業評価から、学習目標の達成は58%であり、十分に達成できたとは言えない。要因としては、1講義毎に疾患が変わる、短い期間での看護過程の展開など学ぶことが多く十分に理解をすることができずと考える。教科書に関しては事前学習から活用できるように心掛けたが、不十分であった。	疾患に対する看護は国家試験対策で、看護過程は実習にて知識が定着できるように支援を続けていきたい。シラバスの変更は、脳神経の疾患に神経障害を追加したものである。看護開始前に学生に提示したため混乱はなかったが、変更なく講義ができるように検討を続けていきたい。
			出席率 (%) 99.3		
			項目 平均点		
			学習目標が達成できた 3.66 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 3.86 この科目は総合的に満足した内容であった 3.86		
	老年看護学実習	2(90)	修得状況 全員修得	今年度より、実習施設が2施設になり患者の対象が異なる環境で学習した背景があったが、アンケート結果が、平均点4.7以上であり、どのような環境でも学習目標は達成できたと考える。3週間同じ環境の中で患者と向き合うことで、看護師の基本的姿勢や対象者を総合的に理解をすることを学ぶことができた。	超高齢社会となっている中で、老年期の対象と接する機会は今後増えてきている。また、慢性期だけでなく手術を受けたりと看護も多岐にわたる。そのため、患者の健康状態と年齢による変化を合わせて考えていくように支援をしていきたいと考える。
			出席率 (%) 100		
			項目 平均点		
			学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.88 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.73 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.54 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.73		
小児看護学	小児看護学Ⅱ	1(30)	修得状況 全員修得	小児看護学の基礎的知識として子どもの成長発達や子どもの日常生活支援、子どもが罹りやすい病気について学ぶ科目であるが、学習目標の達成度と科目の満足度、科目成績などを見ると、しっかりと学ぶ満足のいく科目となったと考える。学びをふまえ、具体的に看護に活用できる知識とすべく、実習での知識の活用ができるように支援をしていく。	小児看護学実習担当教員と、小児看護学講義担当教員が異なるため、授業での知識を実習で活用できるように、教員間の情報共有を密に図っていく。
			出席率 (%) 98.7		
			項目 平均点		
			学習目標が達成できた 4.33 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.53 この科目は総合的に満足した内容であった 4.53		
	小児看護学Ⅲ	1(30)	修得状況 全員修得	子どもの健康期別看護を考え、その対象の安全な技術とそれを行うための看護過程を展開する科目である。そのため、技術演習を行うとともに、対象にあった看護を考えるために、グループワークを多用した。様々な看護観をもとに、対象に必要な看護を考えていく作業は、学生の満足度から推察するに満足感を得る結果となったと考える。	授業終了時には学習目標を達成できていたと感じたが、試験を行ってみて、自分は十分目標達成できていたとまでは言えないと述べる学生が複数名いた。学生の半数以上は子どもと接する機会の少ない学生がいる。そのため、次年度の実習では子どもと接することに戸惑う学生もいると推察される。きちんと学習してきたことを保証し、自信を持って実習に臨めるようにしていく。
			出席率 (%) 99.3		
			項目 平均点		
			学習目標が達成できた 4.13 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.53 この科目は総合的に満足した内容であった 4.6		
小児看護学実習	2(90)	実習評価	修得状況 全員修得	今年度は、保育所実習より全グループが開始となったため、子どもたちとの関わりに不安が高かった学生も自ら積極的に関わり学びを深めることができた。また満足度も高く、実習内容としては効果的なものとなっていることが、評価のAが約8割である事からも分かる。学生自らが短期間で学ぶように次年度に向けてはオリエンテーション内容・方略を検討していく。	講義で作成したアセスメントガイドのより効果的な活用を行う。実習を想起できるようなオリエンテーションと学内ゼミの内容・方略を検討し、学びがより深まるようにしていく。さらに、知識の想起を行い、看護計画や実践に活かせるように支援を行う。
			出席率 (%) 98		
			項目 平均点		
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った 4.35 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった 4.73 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.54 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.42 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.46		

分野	科目	単位 (時間数)	結果	担当講師による分析	課題
母性看護学	母性看護学Ⅱ	1(30)	修得状況 出席率 (%) 99.1 授業評価 学習目標が達成できた 4.1 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.1 この科目は総合的に満足した内容であった 4.17 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	学習目標、満足度共に4を超えており、目標に沿った授業となったと考える。臨床実習で活用されるアセスメントや報告、看護過程、観察、沐浴といった技術が含まれる内容であり、おおむね理解できたという評価と考える。	母性看護学Ⅱ以降は妊娠・分娩・産褥期の看護が中心となるため、母性看護の対象が女性のライフサイクル全ての期にあることを想起できるようにしていく。
			修得状況 出席率 (%) 98.9 授業評価 学習目標が達成できた 4.5 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.77 この科目は総合的に満足した内容であった 4.6 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい		
			修得状況 出席率 (%) 100 授業評価 学習目標が達成できた 4.69 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.92 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.69 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.65 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.88 内容がシラバス通りか はい		
			修得状況 出席率 (%) 98.4 授業評価 学習目標が達成できた 4.24 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 4.28 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい		
	母性看護学Ⅲ	1(30)	修得状況 出席率 (%) 99.3 授業評価 学習目標が達成できた 4.21 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 4.39 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	今年度より担当教員が変わったが、評価には大きな違いは見られなかった。昨年度低かった項目である指導者と教員との指導の一貫性という項目も連携の強化を図ったことで4.81と高くなった。ただ、専門的技術を身につける項目は、4.65と他の項目より低かった。母性看護学は、積極的に援助する項目よりも、見学や部分的な実施項目が多くあったためと考える。	母性Ⅲ看護過程において、学んだと知識をより定着させ、深められるようにし、次年度の臨床実習につなげていく。
			修得状況 出席率 (%) 100 授業評価 学習目標が達成できた 4.62 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.62 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.65 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.5 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.58 内容がシラバス通りか はい		
精神看護学	精神看護学Ⅱ	1(30)	修得状況 出席率 (%) 98.4 授業評価 学習目標が達成できた 4.24 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 4.28 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	外部講師(精神医療)が今年度から変更になったが、授業評価点も高値であり、成績結果に関しても他の科目と比較しても、著しい違いはなかった。精神看護学という分野の特徴上看護の実践をVTRなどで映すことは難しいが、口頭と文字のみの教授には、リアリティを感じることが難しいと考えられる。	授業評価点は、全体的に高値であるが、その中では教科書の活用は、低値である。講義だけでなく、課題も教科書を活用したものを提示するなどの工夫が必要である。
			修得状況 出席率 (%) 99.3 授業評価 学習目標が達成できた 4.21 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 4.39 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい		
	精神看護学Ⅲ	1(30)	修得状況 出席率 (%) 99.3 授業評価 学習目標が達成できた 4.21 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 4.39 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	本科目を担当して7年目になる。評価、全項目のほぼ全員が「当てはまる」を選んでいる。目標に沿った講義内容になってきていると言える。内部・外部講師ともにテスト対策のような講義を行っていないし、過去問と問題を交えていくが、全員がA評価となっている。学生の講義内容の理解が高いと言える。	講義内容としては、テキストの準じて説明しているが、すべての内容を網羅しているわけではない。内容の必要性・重要性をその都度吟味していくことが大切である。この科目は、精神の障害をもつ人の実際の学ぶことを目的としているが、より深く知るために当事者との接触など、より現実感を強めるような内容を取り入れることが必要である。
			修得状況 出席率 (%) 100 授業評価 学習目標が達成できた 4.62 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.62 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.65 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.5 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.58 内容がシラバス通りか はい		
	精神看護学実習	2(30)	修得状況 出席率 (%) 100 授業評価 学習目標が達成できた 4.62 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.62 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.65 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.5 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.58 内容がシラバス通りか はい	精神看護学Ⅰ～Ⅲの学習は、精神看護学実習をより効果的に学習できるような内容としているため、学習満足度として評価が全般的に高値となったと考えられる。	学内の講義の中でもよりリアルに患者や障害について知れる、感じられる工夫も必要なのではないか。また、どのような学習が精神看護に必要なのかより具体的な提示していくことが必要と思われる。
			修得状況 出席率 (%) 99 授業評価 学習目標が達成できた 3.83 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 3.9 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい		
統合分野	在宅看護論Ⅰ	1(15)	修得状況 出席率 (%) 99 授業評価 学習目標が達成できた 3.83 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.14 この科目は総合的に満足した内容であった 3.9 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	在宅看護論Ⅰは在宅看護の目的・意義・役割が理解できるよう、時事問題やニュースを取り上げるとともにDVD等の視聴覚教材を活用した。地域包括ケアシステムが推進される社会に対応できる看護を考え実践できるように講義を進めた。学習目標の達成、満足度共に4を下回ったため、講義内容と授業方法に関して調整が必要と考える。	学生の評価をふまえ、カリキュラム改正もふまえ、さらなる地域における生活者への支援を考えられるよう検討していく。
			修得状況 出席率 (%) 99.6 授業評価 学習目標が達成できた 4.24 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.38 この科目は総合的に満足した内容であった 4.45 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい		
	在宅看護論Ⅱ	1(30)	修得状況 出席率 (%) 98 授業評価 学習目標が達成できた 4.53 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.67 この科目は総合的に満足した内容であった 4.73 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	在宅看護論Ⅱは3人の講師が関わる科目であり、そのため、内容において連携を必要とする科目である。学習目標の達成については達成度を上げるためにはどのような働きかけが必要となるのか、今後も課題であると考ええる。	学習目標の達成がより多くの学生ができるよう、目標に沿った内容を効果的に教授できるよう授業方法などを検討し、今後も努力したい。また、教科書の活用については高い確率でできているため、今後も学生が学習の継続ができるように教科書を活用できる授業づくりを行ってきたい。
			修得状況 出席率 (%) 99.9 授業評価 学習目標が達成できた 4.42 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.65 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.65 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.54 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.58 内容がシラバス通りか はい		
	在宅看護論Ⅲ	1(30)	修得状況 出席率 (%) 98 授業評価 学習目標が達成できた 4.53 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.67 この科目は総合的に満足した内容であった 4.73 内容がシラバス通りか はい 看護技術演習が予定通りできたか はい	在宅看護論Ⅲは2人の講師が関わる科目であり、内容において毎回資料の確認などスムーズに行え、連携が図れた。また在宅看護のイメージ化がスムーズに行えるよう演習やロールプレイを実施している。その際に、マナー・接遇についても考える機会となっているため、継続していきたい。	在宅分野に必要な看護技術については、学生の興味・関心が強く演習についても積極的に入っていた。総合的に満足できたが4.73であるが、学習目標の達成が4.53であったため、学習目標の達成ができるような授業方法を検討していく必要があると考える。学習目標を毎回提示しているが、その達成が数値として表れるように取り組んでいく。
			修得状況 出席率 (%) 99.9 授業評価 学習目標が達成できた 4.42 学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた 4.65 この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた 4.65 この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 4.54 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった 4.58 内容がシラバス通りか はい		

分野	科目	単位 (時間数)	結果			担当講師による分析	課題
看護の統合と実践	看護の統合Ⅰ	1(30)	修得状況	全員修得		看護の統合は3名の外部講師と1名の専任教員で行った。急変時のアセスメントに関しては重症集中ケア認定看護師に災害看護は日本赤十字病院に講師依頼をしている。それぞれの講義の知識を統合できるよう災害看護の実践では、机上シミュレーションや搬送方法等の演習を行った。	国際看護、災害看護、急変時のアセスメントなど2〜3回の講義内容を統合していく事が次年度の課題である。内部教員で行っている演習内容や災害状況を想定した机上シミュレーションを工夫し知識と看護を統合していく。
			出席率 (%)	99.5			
			授業評価	項目	平均点		
				学習目標が達成できた	4.19		
				学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	4.19 4.31		
	内容がシラバス通りか	はい					
	看護技術演習が予定通りできたか	はい					
	看護の統合Ⅱ	1(30)	修得状況	全員修得		看護の統合Ⅱは、侵襲度の高い看護技術の実践力を取得する科目であり、技術試験で結果を問う科目である。5月〜11月まで長い期間を要し、夏休みなど計画性を問われる科目である。アンケート結果より、どの項目も平均点4点を超えており、学習目標は達成できたと考える。	教育課程の使用するテキストの中に使用していない本が記載されていた。学生が購入していない本であり、参考文献が使用テキストに入ってしまったため、学生が混乱しないように確認と修正を徹底していきたい。成績の結果より、技術力の定着という観点からは引き続き技術演習を続けていけるように支援を行ってきたい。
			出席率 (%)	99.8			
			授業評価	項目	平均点		
学習目標が達成できた				4.33			
学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった				4.03 4.47			
内容がシラバス通りか	はい						
看護技術演習が予定通りできたか	はい						
看護の統合Ⅲ	1(30)	修得状況	全員修得		看護の統合Ⅲは、看護管理・医療安全・多重課題と3つの項目があり、教授方法も講義・演習と多岐に渡るものである。講義期間も長く、実習中の傍聴日での講義が中心であった。それだけではなく、学習目標の達成度や満足度の結果に繋がっているのではないかと。	今年度以上に看護の統合Ⅲの学習目標や構成を伝えることで、看護の統合Ⅲで獲得してほしい学習内容を伝えていく必要がある。また、実習中での講義になり、学生はどうしても実習の方にウェイトがいくことが予測されるが、学習内容が実習に直結することを伝えていく。	
		出席率 (%)	99				
		授業評価	項目	平均点			
			学習目標が達成できた	3.92			
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	4.00 3.77			
内容がシラバス通りか	はい						
看護技術演習が予定通りできたか	はい						
看護の統合Ⅳ	1(30)	修得状況	全員修得		人間の主観の危うさを感じながら、科学とはどういうことなのか、主観を排除していくために開発されてきた、研究手法や統計の考え方を学んだ。それらをもとに研究計画書を作成するプロセスを通して、文献検索や、科学的な視点での議論を経験したことで学習目標を達成した実感をも多くの学生が持ったと考える。発表まで行き着くかを不安の高い授業進行であった様子であったが、発表を終えた安堵感で満足が高かったと考える。	研究計画書まで、研究デザインの実際をイメージすることが難しかった。計画書の助言指導を、二科の教員全員で取り組む方法検討中。	
		出席率 (%)	98.2				
		授業評価	項目	平均点			
			学習目標が達成できた	4.84			
			学習目標を達成するために、指定されている教科書が活用できた この科目は総合的に満足した内容であった	4.56 4.64			
内容がシラバス通りか	はい						
看護技術演習が予定通りできたか	はい						
看護の統合と実践実習	2(90)	修得状況	全員修得		院内のオリエンテーションの簡略化や実習時間の変更などを今年度より行ったが、例年に比べても混乱もなく、評価も高値となった。臨床での看護がイメージできるようになるように意識しているが、准看護師としてではなく、看護師としてどのような援助を求められているかが考えられるような内容が満足度に繋がったと考える。	昨年度にくらべ、成績の平均点が、5点ほど高値となった。一概には言えないが、評価表の変更が影響しているとも考えられる。より公正で客観的な評価ができるように内容の精査、検討が必要と考える。	
		出席率 (%)	99.8				
		実習評価	項目	平均点			
			オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.69			
			学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.58			
	この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた 学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった		4.77 4.77 4.73				
	内容がシラバス通りか	はい					

(8) 講師会議

講師及び臨地実習施設の看護管理者に対して、学生の学習状況や国家試験の動向を伝え学生理解を図ること、意見交換を行い、より質の高い教育を目指すことを目的に開催している。

- ・ 開催予定日 2020年3月26日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

(9) 研修の受け入れ状況

研修日	研修機関	受入 人数	内容
2019.9.9 ～ 2019.9.21	環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 通信教育課程看護教員養成コース 看護教育専攻	1人	看護教育実習
2019.6.25 ～ 2019.11.28	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター 教員・教育担当者養成課程 看護コース	4人	看護教育実習
2019.6～2019.9 (3日間)	神奈川県委託事業 看護教員支援事業	1人	シャドウイング

(10) 夏期臨地実習指導者研修会

学生教育の向上のために臨地実習施設と学校との連携を図ることを目的に、臨地実習施設の実習指導者と当校の専任教員を対象に毎年研修会を開催している。

区分	テーマ	目的・内容	実施 日数	参加 人数
第35回目 2019.7.23	「安心感のある学習環境のデザイン～共に学習する場としての臨地実習とは～」	目的：学生教育向上のために臨地実習施設と学校との連携を図る 内容：講演／グループワーク 基調講演・グループワーク 講師名：横浜国立大学 教育学部 教授 有元 典文 先生	1日	66人

6. 教員の研修・研究活動等

(1) 学会・紙上発表

ア 学会発表

題 目	発 表 者 共同研究者	年 月 日	学会名
2年課程昼間定時制卒業生の卒後教育の実態調査	西川 裕美	2019. 8. 23・24	第31回日本看護学校協議会学会
役割の動機づけが仕事のやりがいに与える影響 ～平成30年度看護職員職務満足度調査から考える～	神奈川リハビリテーション病院看護科長 他 中原 真弓	2020. 02. 09	第11回日本臨床看護マネジメント学会
ロールプレイ演習が実習中の接遇に及ぼした影響に関する実態調査	持木 香代 松嶋 葉子	2020. 02. 22	第21回神奈川県看護教育フォーラム
看護師教育の技術項目の卒業時の到達度の実態と課題 ～看護学生と教員と教員の比較から～	小泉 由香里 中野 志津江 赤堀 貴子	2020. 02. 22	第21回神奈川県看護教育フォーラム
機能訓練型デイサービスからの学び	豊原 敦子 中野 志津江	2020. 02. 22	第21回神奈川県看護教育フォーラム

イ 紙上発表

題 目	研 究 者	発行年月	雑誌名
臨地実習で実習指導体制をパートナー方式にした効果と課題	安藤 直子 田原 裕子 渡辺 彩	2019. 8	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第9号
複合的な技術試験導入後の2年次成人看護学実習での効果	渡辺 彩 安藤 直子 諏訪 真由美	2019. 8	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第9号
A看護専門学校教員の防災対策に対する意識調査	前田 幹香 持木 香代 池田 紀子	2019. 8	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第9号
A看護専門学校生の学校生活における自己肯定意識に関する実態調査 第2報	諏訪 真由美	2019. 8	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第9号
在宅看護論実習における訪問診療での学び 第2報	持木 香代	2019. 8	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第9号

ウ 倫理委員会にける審査結果

2019年度における研究の審査結果は次のとおりである。

開 催 日	申 請 数	審査結果
第1回 2019年6月18日	4題	(1) 承認 0件 (2) 再提出 11件 (3) 不承認 0件
第2回 2019年11月7日	7題	

(2) 座長・講師等

題 目	講 師 名	年 月 日	主 催
厚木市開発審査会 委員	武藤 和恵	2018. 4. 01 ～ 2020. 3. 31	厚木市
厚木市健康保険運営協議会 委員	武藤 和恵	2019. 9. 01 ～ 2022. 8. 31	厚木市
厚木市立病院運営審議会 委員	武藤 和恵	2018. 4. 01 ～ 2020. 3. 31	厚木市立病院
厚木市立病院臨床研修管理委員会 委員	武藤 和恵	2019. 4. 01 ～ 2020. 3. 31	厚木市立病院
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 理事	武藤 和恵	2018. 5. 22 ～ 2020. 5. 17	神奈川県看護師等養成機関連絡協議会
厚木保健師・助産師・看護師・准看護師会 役員	武藤 和恵	2019. 6. 26 ～ 2021. 6月総会	厚木保健師・助産師・看護師・准看護師会
環太平洋大学 教育経営学科通信教育課程 「領域専門別看護論演習」(非常勤講師)	五十嵐 一美	2019. 4. 01 ～ 2020. 3. 31	環太平洋大学 教育経営学科通信教育課程
看護研究 基礎研修	五十嵐 一美	2019. 5. 10	厚木看護専門学校主催
了徳寺大学 健康科学部看護学科2年生 「人間関係実践演習Ⅱ」講師	五十嵐 一美	2019. 11. 25	了徳寺大学 健康科学部看護学科
伊勢原協同病院 看護研究指導 講師	中野 志津江	2019. 5. 23 9. 30 10. 3 12. 5	伊勢原協同病院
神奈川県保健福祉大学 看護実践教育センター 教員・教育 担当者養成課程 看護コース 「看護論(人間関係の看護論 再構成演習)」 (非常勤講師)	中原 真弓	2019. 05. 24	神奈川県保健福祉大学 実践教育センター
伊勢原協同病院 「かながわ看護フェスティバル」 看護一日体験	田原 裕子	2019. 7. 28	伊勢原協同病院
神奈川県保健福祉大学 看護実践教育センター 教員・教育 担当者養成課程 看護コース 「看護教育方法演習(ロールプレイング)」 (非常勤講師)	田原 裕子	2019. 8. 7 2019. 9. 3 2019. 9. 24 2019. 9. 27	神奈川県保健福祉大学 実践教育センター
神奈川県保健福祉大学 看護実践教育センター 教員・教育 担当者養成課程 看護コース 「看護教育実習」 (非常勤講師)	中原 真弓 安藤 直子 持木 香代 渡邊 雅英	2019. 06. 25 ～ 2019. 11. 28	神奈川県保健福祉大学 実践教育センター
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護実習指導者講習会 (非常勤講師)	櫛谷 由佳	2019. 11. 6	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
神奈川県立保健福祉大学 看護実践教育センター 教員・教育 担当者養成課程 看護コース 「看護の統合と実践 演習授業案作成」(非常勤講師)	安藤 直子	2019. 12. 10 2019. 12. 18	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護実習指導者講習会 (特定分野:保健・医療・福祉施設) (非常勤講師)	持木 香代	2019. 11. 07 2019. 11. 14	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
「中堅看護職のためのフィジカルイグザミネーション」 ―事例を通して症状・兆候からのアセスメント―	三浦 夏枝 藤原 則子 前田 幹香	2019. 10. 26	厚木地区看護部長会
神奈川県総合リハビリテーション事業団 センター研究発表 会 座長	中原 真弓	2020. 2. 13	神奈川県総合リハビリテーション事業団
「保健師・助産師・看護師」実習指導者講習会 「2年課程教育制度と実習指導」	西川 裕美	2019. 10. 24	東海大学健康科学部看護学科
道徳授業 「命の尊さ より良い生き方について」	赤堀 貴子	2020. 2. 28	厚木市立玉川中学校

(3) 学外研修参加

ア. 学外研修

名称	開催地	参加年月日	参加者
学研ナーシングセミナー 看護師国家試験分析レポート受験指導対策セミナー	東京都 千代田区	2019. 4. 6	持木 香代 菊池 寛子
さわ研究所春期教員セミナー	東京都 千代田区	2019. 4. 13	菊池 寛子
さわ研究所春期教員セミナー	埼玉県 さいたま市	2019. 4. 14	島田 真由美 持木 香代
東京アカデミー 第109回看護師国家試験対策無料セミナー	神奈川県 横浜市	2019. 4. 21	菊池 寛子
NPO法人 地域生活ネットワーク ケアサポート SST（社会生活技能訓練）ファーストレベル ～SST普及協会認定指導講師による～	神奈川県 横浜市	2019. 5. 3 5. 4	渡辺 彩
看取りシリーズ研修会1回 看取りの基礎知識・看取りにおけるケア意義と実践	神奈川県 厚木市	2019. 5. 23	中野 志津江
日総研 看護過程の適切な展開方法と根拠がある指導法	東京都 千代田区	2019. 5. 26	櫛谷 由佳 小泉 由香里
前川玉緒講師主催 国家試験対策セミナー	神奈川県 横浜市	2019. 5. 26	菊池 寛子
一般社団法人日本看護学校協議会 2019年度 学校長会	東京都 千代田区	2019. 5. 29	武藤 和恵
第13回 オフィス防災 EXPO 第14回 オフィスセキュリティ EXPO	東京都 江東区	2019. 5. 29	藤原 則子 池田 紀子
外国につながるのある高校生の勉強会	神奈川県 横浜市	2019. 5. 30	五十嵐 一美
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 2019年度総会・講演会 「臨床から看護基礎教育に望むこと」	神奈川県 横浜市	2019. 5. 31	武藤 和恵 島田 真由美 大河原 亮一
NEW EDUCATION EXPO 2019	東京都 江東区	2019. 6. 6	菊池 寛子
NEW EDUCATION EXPO 2019	東京都 江東区	2019. 6. 7	杉崎 真紀
NEW EDUCATION EXPO 2019	東京都 江東区	2019. 6. 8	櫛谷 由佳 小泉 由香里
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 新人・中堅看護教員研修	神奈川県 横浜市	2019. 6. 8 11. 9	諏訪 真由美 松嶋 葉子

名称	開催地	参加年月日	参加者
教育ITソリューションEXPO 2019	東京都 江東区	2019. 6. 19	武藤 和恵 島田 真由美 大河原 亮一 櫛谷 由佳
神奈川県看護部長会研修 「看護の未来」	神奈川県 横浜市	2019. 6. 20	武藤 和恵
教育ITソリューションEXPO 2019	東京都 江東区	2019. 6. 20	五十嵐 一美 栗本 慶一 持木 香代 前田 幹香
教育ITソリューションEXPO 2019	東京都 江東区	2019. 6. 21	中原 真弓 田原 裕子 中野 志津江
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会西部支部研修 学生個々の学びを支える看護教育 「主体的に学ぶ力を養う問いづくり」	神奈川県 小田原市	2019. 6. 22	武藤 和恵 島田 真由美 中原 真弓 田原 裕子 安藤 直子 三浦 夏枝 杉崎 真紀 藤原 則子 諏訪 真由美 池田 紀子 佐倉 幸子 三浦 英子 小泉 由香里 中野 志津江 赤堀 貴子 高井 咲恵 関 真弓 大河原 亮一 持木 香代 前田 幹香 渡邊 雅英 今田 美和子 西川 裕美 松嶋 葉子
insource クリティカルシンキング研修 ～本質を見抜く力を養う～	東京都 千代田区	2019. 6. 22	菊池 寛子

名称	開催地	参加年月日	参加者
厚木看護師会 第1回研修会 「認知症者に寄り添う看護を目指して」	神奈川県 厚木市	2019. 6. 26	武藤 和恵 五十嵐 一美 島田 真由美 田原 裕子 藤原 則子 赤堀 貴子 中野 志津江 杉崎 真紀 豊原 敦子 小泉 由香里 渡辺 彩 大河原 亮一 持木 香代 前田 幹香 渡邊 雅英 今田 美和子 西川 裕美 松嶋 葉子
県央支部大会 「レジリエンスを鍛える～折れない心で働き続ける」	神奈川県 厚木市	2019. 6. 27	渡邊 雅英
一般社団法人日本看護学校協議会 第1回教育研修会 「教育評価としての問題作成の考え方」	東京都 千代田区	2019. 7. 1	島田 真由美
新カリキュラム対策講座 今からはじめる新カリに反映させたい教育内容	東京都 千代田区	2019. 7. 7	諏訪 真由美 小泉 由香里 櫛谷 由佳 菊池 寛子
時間も教員もベッドも足りない学校でもできるシュミレーション教育	東京都 千代田区	2019. 7. 14	藤原 則子
NPO法人 地域生活ネットワーク ケアサポート 最新 精神科アセスメントの知識と援助（支援・看護） 計画の立案方法	東京都 新宿区	2019. 7. 15	渡辺 彩
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会東部支部研修 看護実践の場における学びを支える教育実践 「レジリエンスな看護学生の創り方」	神奈川県 横浜市	2019. 7. 20	菊池 寛子
秦野赤十字病院 臨床指導者研修	神奈川県 秦野市	2019. 8. 3	杉崎 真紀 渡辺 彩
一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会 エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座	東京都 中央区	2019. 8. 3 8. 4	高井 咲恵
学研 第109回看護師国家試験対策9月からの学生指導法	東京都 品川区	2019. 8. 4	赤堀 貴子
日総研出版 ループブックを用いたパフォーマンス評価 （基礎・導入編）	東京都 千代田区	2019. 8. 4	島田 真由美

名称	開催地	参加年月日	参加者
平塚看護大学校 ループブック評価の基本的な知識とその作成方法について	神奈川県 平塚市	2019. 8. 5	池田 紀子 藤原 則子 諏訪 真由美 渡辺 彩 赤堀 貴子
一般社団法人職業教育・キャリア教育財団 中堅教員研修会 教育・指導力向上	東京都 千代田区	2019. 8. 8 8. 9	渡辺 彩
京都化学 「看護過程に活かすシナリオシミュレーションのいろは」	東京都 文京区	2019. 8. 31	中野 志津江
メディカ出版 教員が知っておきたい解剖生理の教授方法	東京都 渋谷区	2019. 9. 7	諏訪 真由美 菊池 寛子 渡辺 彩
進研アド 高大接続改革を踏まえ、専門学校広報に求められる対策とは？	東京都 新宿区	2019. 9. 20	五十嵐 一美 安藤 直子
神奈川県看護部長会研修会 「2020年度診療報酬改定を予測する」 ～次期改定に向け準備しておくべきこと、見直すべきこと～ 「AIが医療分野（看護）に及ぼす影響とは」	神奈川県 横浜市	2019. 9. 26	武藤 和恵
厚木医療福祉連絡会 厚木介護フォーラム	神奈川県 厚木市	2019. 10. 5	菊池 寛子 持木 香代
さわ研究所秋期教員セミナー	東京都 千代田区	2019. 10. 19	中原 真弓 杉崎 真紀 菊池 寛子 諏訪 真由美 中野 志津江 赤堀 貴子
WRAP2日間集中クラス	東京都 足立区	2019. 10. 26 10. 27	渡辺 彩
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・臓器移植をめぐる医療倫理とリエゾン精神医学	東京都 文京区	2019. 10. 30	中野 志津江
医学書院セミナー 「カリキュラム改正のポイントとその対応」	大阪府 大阪市	2019. 11. 2	島田 真由美 持木 香代

名称	開催地	参加年月日	参加者
医学書院セミナー 「カリキュラム改正のポイントとその対応」	オンデマンド	2019. 11. 2	武藤 和恵 田原 裕子 中原 真弓 安藤 直子 豊原 敦子 三浦 夏枝 杉崎 真紀 諏訪 真由美 池田 紀子 佐倉 幸子 菊池 寛子 渡辺 彩 小泉 由香里 赤堀 貴子 高井 咲恵 中野 志津江 前田 幹香 渡邊 雅英 今田 美和子 西川 裕美
看取りシリーズ研修会 3回 「症例別（がん・慢性疾患・認知症）の看取りの知識」	神奈川県 厚木市	2019. 11. 7	中野 志津江 小泉 由香里
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 「在宅看護師を育てたい ～訪問看護の現場から新カリキュラムに臨んで～」	神奈川県 横浜市	2019. 11. 8	武藤 和恵 大河原 亮一
海老名総合病院 ワークショップ	神奈川県 海老名市	2019. 11. 9	豊原 敦子 中野 志津江
厚木看護師会 第2回研修会 「地域における認知症者への支援の実際」 Ⅰ 認知症疾患医療センターの役割と実践 Ⅱ 地域包括支援センターの役割と実践	神奈川県 厚木市	2019. 11. 20	武藤 和恵 島田 真由美 中原 真弓 田原 裕子 豊原 敦子 杉崎 真紀 藤原 則子 小泉 由香里 菊池 寛子 渡辺 彩 中野 志津江 関 真弓 大河原 亮一 持木 香代 渡邊 雅英 今田 美和子 松嶋 葉子
地域包括ケア市民講演会「最期まで自分らしく」 穏やかな最期を迎えるために～平穏死のすすめ～	神奈川県 厚木市	2019. 11. 22	中野 志津江
アクティブラーニングに活かすシミュレーション教育方法	東京都 文京区	2019. 11. 23	櫛谷 由佳 菊池 寛子
「臨床判断能力」を養うために必要な「知」とは	東京都 港区	2019. 11. 24	島田 真由美 田原 裕子 櫛谷 由佳

名称	開催地	参加年月日	参加者
日総研 「ループリックを用いたパフォーマンス評価 (基礎・導入編)」	福岡県 福岡市	2019. 11. 24	藤原 則子
JADTA(日本ダンスセラピー協会) 第31回研修講座	東京都 中野区	2019. 11. 31 12. 1	渡辺 彩
(一社) 職業教育・キャリア教育財団 全国専修学校各種学校総連合会・全国専門学校協会 「管理者研修会」	東京都 千代田区	2019. 12. 3	武藤 和恵 五十嵐 一美
日本看護サミット2019 訪問看護サミット2019	神奈川県 横浜市	2019. 12. 6	武藤 和恵 五十嵐 一美 島田 真由美 小泉 由香里 今田 美和子 松嶋 葉子
(一社) 日本看護学校協議会 「副学校長・教務主任会」 「カリキュラム評価と開発」	東京都 千代田区	2019. 12. 17	五十嵐 一美 島田 真由美
認知症ケア基本シリーズ① 認知症とうつ病の基本的理解と心に寄り添うケアについて	神奈川県 厚木市	2019. 12. 12	中野 志津江
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・心臓移植はいかに受け入れられたか	東京都 文京区	2019. 12. 18	中野 志津江
日総研 「実習におけるパフォーマンス評価」	東京	2019. 12. 22	島田 真由美 藤原 則子
日総研 授業・演習におけるパフォーマンス評価	東京都 千代田区	2020. 2. 2	中原 真弓 田原 裕子 安藤 直子 豊原 敦子 藤原 則子 諏訪 真由美 中野 志津江 菊池 寛子
精神看護ベーシック オレム・アンダーウッドモデルの実践活用	東京都 目黒区	2019. 4. 27 5. 25 6. 22 7. 27 10. 26 11. 30 2020. 1. 25 2. 22	櫛谷 由佳
東京アカデミー 第109回看護師国家試験本試験分析会	神奈川県 横浜市	2020. 2. 23	島田 真由美 菊池 寛子 小泉 由香里 赤堀 貴子
アドバンス・ケア・プランニング②研究会	神奈川県 厚木市	2020. 1. 16	小泉 由香里 中野 志津江

名称	開催地	参加年月日	参加者
県民公開講座 「見て・聞いて・体感する認知症」 ～VRで体感する認知症の世界～	神奈川県 横浜市	2020. 1. 18	中野 志津江
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 「新カリキュラム開始にかかる看護基礎教育検討会の内 容を読み解く」	神奈川県 横浜市	2020. 2. 13	大河原 亮一 櫛谷 由佳
認知症ケア基本シリーズ② これなら私にもできる認知症の方に寄り添うケアについ て	厚木市	2020. 2. 19	小泉 由香里 中野 志津江
メレイス博士来日公演会「移行理論の実践と教育」	東京都	2020. 2. 24	中野 志津江 櫛谷 由佳
「職業実践専門課程」の第三者評価フォーラム2020	東京都 新宿区	2020. 2. 25	武藤 和恵 持木 香代

イ. 学会等

名称	開催地	参加年月日	参加者
第44回 日本精神科看護学術集会	長崎県 長崎市	2019. 6. 21 2019. 6. 22 2019. 6. 23	渡辺 彩
第50回 日本看護学会 急性期看護 学術集会	岩手県 盛岡市	2019. 7. 18 2019. 7. 19	杉崎 真紀
第29回 日本看護学教育学会学術集会	京都府 京都市	2019. 8. 3 2019. 8. 4	菊池 寛子
第50回 日本看護学会 看護教育 学術集会	和歌山県 和歌山市	2019. 8. 8 2019. 8. 9	島田 真由美 持木 香代
第23回 日本看護管理学会 学術集会	新潟県 新潟市	2019. 8. 23 2019. 8. 24	武藤 和恵
第31回 日本看護学校協議会学会	香川県 高松市	2019. 8. 23 2019. 8. 24	西川 裕美
第18回 日本看護技術学会 学術集会	福井県 福井市	2019. 09. 07 2019. 09. 08	三浦 夏枝 藤原 則子
第60回 日本母性衛生学会総会・学術集会	千葉県 浦安市	2019. 10. 11	三浦 英子
第50回 日本看護学会 看護管理 学術集会	和歌山県 和歌山市	2019. 10. 23 2019. 10. 24	中原 真弓
第31回 日本リハビリテーション看護学会学術大会	東京都 千代田区	2019. 11. 9	菊池 寛子 渡辺 彩
第50回 日本看護学会 慢性期看護 学術集会	鹿児島県 鹿児島市	2019. 11. 14 2019. 11. 15	諏訪 真由美
第8回 一般社団法人 日本在宅看護学会 学術集会	東京都 新宿区	2019. 12. 7 2019. 12. 8	豊原 敦子
第9回 日本医療コンフリクトマネジメント学会 学術集会	富山県 富山市	2020. 1. 25 2020. 1. 26	大河原 亮一

(4) 学会・団体の入会状況

ア 学校

学 会 ・ 団 体 名
一般社団法人 日本看護学校協議会
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会
神奈川県専修学校各種学校協会
神奈川県助産師会

イ 個人

学 会 ・ 団 体 名	入会者数
公益社団法人 日本看護協会	26 人
NPO法人 日本リハビリテーション看護学会	23 人
厚木保健師・助産師・看護師・准看護師会	28 人
一般社団法人 日本看護研究学会	1 人
一般社団法人 日本看護学教育学会	2 人
一般社団法人 日本災害看護学会	1 人
一般社団法人 日本看護管理学会	1 人
公益社団法人 日本助産師会	1 人
一般社団法人 日本アートセラピー協会	1 人
日本看護図書館協会	1 人
日本スクール・コンプライアンス学会	1 人
日本医療コンフリクト・マネジメント学会	1 人
神奈川県看護部長会	1 人
神奈川県県央地区看護部長会	1 人
厚木地区看護部長会	1 人

(5) 受賞・認定等取得状況

ア 受賞

氏名	表彰日	表彰名称	表彰者
池田 紀子	2019 年 10 月	永年勤続 (10 年)	社会福祉法人 全国社会福祉事業団協議会
諏訪真由美	2019 年 10 月	永年勤続 (5 年)	社会福祉法人 全国社会福祉事業団協議会
前田 幹香	2019 年 11 月	永年勤続 (15 年)	教職員等永年勤続表彰 教員
櫛谷 由佳	2019 年 11 月	永年勤続 (10 年)	教職員等永年勤続表彰 教員
菊池 寛子	2019 年 11 月	永年勤続 (5 年)	教職員等永年勤続表彰 教員
渡辺 彩	2019 年 11 月	永年勤続 (5 年)	教職員等永年勤続表彰 教員
栗本 慶一	2019 年 11 月	永年勤続 (5 年)	教職員等永年勤続表彰 職員

イ 認定資格等

氏名	資格名称	認定日	認定者
武藤 和恵	認定看護管理者	平成 29 年 7 月	公益社団法人 日本看護協会
武藤 和恵	医療安全管理者	平成 26 年 10 月	公益社団法人 神奈川県看護協会
武藤 和恵	介護支援専門員	平成 11 年 7 月	神奈川県知事
武藤 和恵	自衛消防業務新規講習	平成 26 年 7 月	一般財団法人 日本消防設備安全センター
武藤 和恵	文部科学省委託事業「職業実践専門課程における第三者評価の評価基準・体制の構築」 内部質保証人材養成セミナー	平成 29 年 8 月	学校法人岩崎学園 情報技術専門学校
武藤 和恵	文部科学省委託事業「職業実践専門課程における第三者評価の評価基準・体制の構築」 第三者評価審査員養成セミナー	平成 29 年 11 月	学校法人岩崎学園 情報技術専門学校
五十嵐一美	認定アートセラピスト	平成 19 年 6 月	一般社団法人 日本アートセラピー協会
五十嵐一美	ダンスセラピスト	平成 19 年 8 月	全米ダンスセラピー協会
五十嵐一美	ファーストエイドナース	平成 25 年 8 月	一般社団法人 日本救急看護学会
五十嵐一美	医療安全管理者	平成 24 年 8 月	公益社団法人 日本看護協会
五十嵐一美	医療的ケア教員	平成 29 年 1 月	厚生労働省
大河原亮一	第一種衛生管理者	平成 24 年 4 月	厚生労働省東京労働局長
中原 真弓	医療安全管理者	平成 31 年 2 月	神奈川県知事
持木 香代	介護支援専門員	平成 22 年 5 月	神奈川県知事
三浦 英子	新生児蘇生法「専門」コース (A コース) 修了認定	平成 22 年 2 月	一般社団法人 日本周産期・新生児医学会理事長
西川 裕美	新生児蘇生法「専門」コース 修了認定	平成 24 年 3 月	一般社団法人 日本周産期・新生児医学会理事長

氏名	資格名称	認定日	認定者
西川 裕美	PALS プロバイダー	平成 24 年 5 月	American Heart Association
中野志津江	介護教員	平成 18 年 10 月	社会福祉法人全国社会福祉協議会 中央福祉学院
中野志津江	主任指導者	平成 16 年 10 月	社団法人日本介護福祉士養成施設 協会
中野志津江	医療的ケア教員	平成 24 年 4 月	株式会社メディカルプラネット
中野志津江	介護福祉士国家試験実地試験 委員	平成 23 年 3 月 平成 27 年 3 月	公益社団法人社会福祉振興・試験 センター
中野志津江	看護のキネステティクス®ベ ーシックコース修了認定	平成 22 年 1 月	株式会社 CARE PROGRESS JAPAN
中野志津江	健康福祉運動指導者	平成 21 年 2 月	放送大学 石弘光
中野志津江	車いすレクダンスインストラ クター	平成 27 年 11 月	特定非営利活動法人車いすレクダ ンス普及会 理事長 黒木実馬
中野志津江	介護予防指導士	平成 24 年 5 月	特定非営利活動法人 日本介護予 防協会
中野志津江	看護師・精神保健福祉士のた めのストレスチェック実施者 養成研修修了	平成 27 年 9 月	一般社団法人日本精神科産業医協 会

(6) 職員研修

職員研修は、本校における職員の自己啓発の促進と広い視野で知見を得ることで職員個々の能力向上を図り、学校経営・運営の企画・実践につなげることを目的として実施した。

2019 年 7 月 25 日 (木)

テーマ	内容	講師	参加人数
健康経営で進める働き方 改革と健康職場づくり	健康経営の実践を学び、働 き方改革と健康職場づく りについて知見を得るこ とで、学校経営・運営の企 画・実践につなげる。	株式会社フジクラ健康社会 研究所 代表取締役 浅野健一郎氏	33 人

2019 年 12 月 27 日 (金)

テーマ	内容	参加人数
健康経営で進める働き方改革と健康職場づ くり	経営ワークショップ 学校経営・運営の企画・実践につ なげる。	33 人

2020 年 3 月 26 日（水）

テーマ	内容	参加人数
テーマ：コードホワイト ～不審者から身を守る～	不審者侵入時の安全意識を高め、職員が有事の際の初動の動きが解る教職員向け防犯教室	30 人

教員勉強会

テーマ	内容	参加人数
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 1 回 2019 年 6 月 12 日（水）	授業研究 I	25 人
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 2 回 2019 年 7 月 10 日（水）	授業研究 II	20 人
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 3 回 2019 年 9 月 11 日（水）	授業研究 III	20 人
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 4 回 2019 年 10 月 9 日（水）	試験作成 I C F I	20 人
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 5 回 2019 年 11 月 13 日（水）	I C F II	15 人
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 6 回 2019 年 12 月 11 日（水）	I C F III	20 人
授業改善会議主催 2019 年度 勉強会 第 7 回 2020 年 2 月 5 日（水）	I C F IV	20 人

7. 学生に関する状況

(1) 学生の在籍状況

(人)

区分		年度当初在籍	年度内異動 男子()内数		年度末在籍	進級・卒業	留年
学科	学年(定員)	男子()内数	編入学	退学	男子()内数	男子()内数	男子()内数
看護第一学科	1年(80)	85(12)	0(0)	0(0)	85(12)	81(10)	1(0)
	2年(80)	83(15)	0(0)	1(0)	82(15)	76(13)	5(0)
	3年(80)	90(8)	0(0)	1(0)	89(8)	88(7)	1(1)
	計(240)	258(35)	0(0)	2(0)	256(35)	245(30)	7(1)
看護第二学科	1年(40)	0(2)	0(0)	0(0)	0(2)	0(2)	0(0)
	2年(40)	30(2)	0(0)	0(0)	30(2)	30(2)	0(0)
	3年(40)	26(4)	0(0)	0(0)	26(4)	26(4)	0(0)
	計(120)	56(8)	0(0)	0(0)	56(8)	56(8)	0(0)
合計	1年(120)	85(14)	0(0)	0(0)	85(14)	81(12)	1(0)
	2年(120)	113(17)	0(0)	1(0)	112(17)	106(15)	5(0)
	3年(120)	116(12)	0(0)	1(0)	115(12)	114(11)	1(1)
	計(360)	314(43)	0(0)	2(0)	312(43)	301(38)	7(1)

看護第一学科1年生で年度末退学者3名(女子1名、男子2名)有り。
看護第一学科2年生で年度末退学者1名(女子)有り。

(2) 入学試験の状況

看護第一学科

区分	応募者数	受験者数	合格者数	補欠者数	入学者数	補欠(内数)	応募倍率	合格率	入学率
推薦(指定校)	61人	61人	60人	0人	60人	(0人)	1.02	98.4%	100.0%
推薦(公募)	18人	18人	6人	0人	5人	(0人)	3.00	33.3%	83.3%
社会人(第1回)	43人	42人	8人	0人	6人	(0人)	5.38	19.0%	75.0%
社会人(第2回)	25人	25人	4人	0人	4人	(0人)	6.25	16.0%	100.0%
一般(第1回)	45人	33人	13人	2人	9人	(1人)	3.46	39.4%	64.3%
一般(第2回)	12人	11人	2人	0人	2人	(0人)	6.00	18.2%	100.0%
合計	204人	190人	93人	2人	86人	(1人)	2.19	48.9%	91.5%

※看護第二学科は、2019年度入学生より募集停止

※特定大卒者入試は、2020年度入学生より廃止

(3) 入学生の出身地

看護第一学科		
都道府県名	男	女
北海道	0	1
東京都	1	3
神奈川県	9	71
静岡県	0	1
(小計)	(10)	(76)
合計	86	

(4) 看護師国家試験合格状況

区分	平成27年度 第105回	平成28年度 第106回	平成29年度 第107回	2018年度 第108回	2019年度 第109回
看護第一学科	回生	32回生	33回生	34回生	35回生
	卒業者数	80	86	78	72
	合格者数	80	82	77	70
	合格率	100.0%	95.3%	98.7%	97.2%
看護第二学科	回生	42回生	43回生	44回生	45回生
	卒業者数	19	35	43	22
	合格者数	19	33	43	22
	合格率	100.0%	94.3%	100.0%	100.0%
合計	卒業者数	99	121	121	94
	合格者数	99	115	120	92
	合格率	100.0%	95.0%	99.2%	97.9%

(5) 就職・進路状況

ア 看護第一学科

	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
看護第一学科	88人	82人	1人	5人
() は男子で内数	(7人)	(6人)	(0人)	(1人)

就職者の地域別状況

地域区分	地域別	県内県外別計
県央地域	56	県内 82人
相模原地域	2	
横浜地域	0	
川崎地域	2	
横須賀・三浦地域	0	
湘南東部・西部地域	22	
県西地域	0	
県外	0	県外 0人

イ 看護第二学科

	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
看護第二学科	26人	24人	0人	2人
() は男子で内数	(4人)	(4人)	(0人)	(0人)

就職者の地域別状況

地域区分	地域別	県内県外別計
県央地域	11	県内 24人
相模原地域	2	
横浜地域	2	
川崎地域	1	
横須賀・三浦地域	0	
湘南東部・西部地域	3	
県西地域	5	
県外	0	県外 0人

(6) 奨学金の貸付状況

(人)

区分		神奈川県総合 リハビリテーション 事業団の学資金	神奈川県の学資金		学生支援機構の奨学金					合計
学科	学年		一般	特例	貸与一種	貸与二種	貸与併用	給付	貸与・給付 併用	
看護第一学科	1年	4	3	1	10	5	2	2	2	29
	2年	23	4	0	5	6	1	1	1	41
	3年	26	6	0	7	6	2	0	0	47
	計	53	13	1	22	17	5	3	3	111
看護第二学科	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年	3	13	0	2	5	0	0	1	24
	3年	4	5	1	0	13	1	0	0	24
	計	7	18	1	2	18	1	0	1	47
合計	1年	4	3	1	10	5	2	2	2	25
	2年	26	17	0	7	11	1	1	2	62
	3年	30	11	1	7	19	3	0	0	71
	計	60	31	2	24	35	6	3	4	158

(7) スクールカウンセリングの利用状況

開室回数	利用延べ人数
53回	86

8. 学生確保活動

(1) 推薦指定校の推移

看護第一学科

(校)

区分	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
県内	41	38	37	38	35
県外	6	4	4	4	4
合計	47	42	41	42	39

看護第二学科

(校)

区分	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
県内	3	3	1
県外	0	1	0
合計	3	4	1

※ 2019年度入学生より募集停止

(2) オープンキャンパス・学校見学会

(人)

区分	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019年度										計
				学校見学会					オープンキャンパス					
				6/1	7/6	8/23	9/21	3/20	7/27	8/2	8/17	12/7		
看護第一学科推薦指定校	242	231	294	30	29	20	18	新 感 型 染 コ ロ ナ の ウ た イ め ル 中 止	67	70	83	12	329	
看護第二学科推薦指定校	10	20	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
県内公立高校	21	28	31	6	3	7	9		13	8	19	5	70	
県内私立高校	12	12	17	1	0	0	3		3	5	4	1	17	
県外高校	17	12	12	2	0	1	3		9	2	6	1	24	
准看護師養成校	6	6	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
その他（社会人等）	279	220	259	43	37	21	28		50	40	64	34	317	
合計	587	529	613	82	69	49	61	0	142	125	176	53	757	

※ 学校見学会は、校舎見学を主眼として、教員による校舎の詳しい案内に加えて、面接における所作や願書の記入方法の説明も行っている。

※ オープンキャンパスは、学校生活や入学案内の説明に加えて、学校生活や学校の雰囲気を感じてもらえるように、授業が体験できる模擬授業、在校生による校舎の案内、在校生との意見交換・質疑応答コーナーも設けている。

※ 2019年5月18日に実施した文化祭において、相談コーナーを設け進路相談(10人が利用)に対応した。

※ 2019年度 厚木地区看護部長会主催の合同就職説明会9月29日・3月1日両日共に参加、受験希望者に対応した。

(3) 一日看護体験

将来の進路選択として体験から看護を理解してもらうことを目的とし、高校生等を対象に
2019年7月20日に実施した。

参加校・参加人数の内訳

区分		申込人数	参加人数
推薦指定校	県央地域	33人	30人
	相模原地域	15人	13人
	湘南地域	26人	24人
	県西地域	5人	5人
	横浜地域	5人	5人
	川崎地域	0人	0人
	県外	6人	1人
	小計	90人 (30校)	78人 (28校)
推薦指定校以外	県央地域	0人	0人
	相模原地域	3人	2人
	湘南地域	0人	0人
	県西地域	0人	0人
	横浜地域	0人	0人
	川崎地域	1人	0人
	県外	1人	1人
	小計	5人 (5校)	3人 (3校)
一般	社会人	23人	20人
	大学生等	0人	0人
	中学生	3人	3人
	小学生等	0人	0人
	小計	26人	23人
合計		121人 (35校)	104人 (31校)

(4) 進学説明会

地 域	対象高校・施設	出席日	主催業種分類
県央地域 (13)	厚木北高校	2019 年 4 月 17 日	進路相談企画
		2019 年 4 月 17 日	進路相談企画
		2019 年 12 月 13 日	進路相談企画
	厚木清南高校	2019 年 4 月 10 日	進路相談企画
		2019 年 9 月 13 日	進路相談企画
	厚木清南高校 (定時制)	2019 年 12 月 13 日	進路相談企画
	厚木商業高校	2019 年 7 月 18 日	進路相談企画
		2019 年 7 月 19 日	進路相談企画
	厚木西高校	2019 年 6 月 11 日	進路相談企画
		2019 年 6 月 11 日	進路相談企画
	厚木東高校	2019 年 11 月 12 日	進路相談企画
	愛川高校	2019 年 7 月 18 日	進路相談企画
	綾瀬高校	2019 年 5 月 16 日	進路相談企画
		2019 年 12 月 12 日	進路相談企画
	綾瀬西高校	2019 年 5 月 10 日	進路相談企画
		2019 年 6 月 7 日	進路相談企画
	座間総合高校	2019 年 5 月 21 日	進路相談企画
		2019 年 6 月 25 日	進路相談企画
		2019 年 7 月 16 日	進路相談企画
		2019 年 12 月 17 日	進路相談企画
	大和南高校	2019 年 7 月 8 日	進路相談企画
	相模向陽館高校	2019年5月24日 午前	進路相談企画
		2019年5月24日 午後	進路相談企画
	生蘭高等専修学校	2019 年 9 月 9 日	進路相談企画
相模原地域 (5)	上鶴間高校	2019 年 4 月 18 日	進路相談企画
	相模原田名高校	2019 年 5 月 13 日	進路相談企画
		2020 年 1 月 27 日	進路相談企画
	相模原青陵高校	2019 年 5 月 27 日	進路相談企画
	相模原総合高校	2019 年 12 月 19 日	進路相談企画
		2019 年 11 月 28 日	進路相談企画
湘南地域 (6)	伊勢原高校	2019 年 6 月 11 日	進路相談企画
		2019 年 12 月 12 日	進路相談企画
	秦野総合高校	2019 年 5 月 28 日	進路相談企画
		2019 年 11 月 12 日	進路相談企画
		2020 年 1 月 21 日	進路相談企画
		2020 年 1 月 28 日	進路相談企画
	秦野曾屋高校	2019 年 10 月 3 日	秦野曾屋高校
	平塚湘風高校	2019 年 5 月 14 日	進路相談企画
	高浜高校	2019 年 12 月 2 日	進路相談企画
	鶴嶺高校	2019 年 12 月 19 日	進路相談企画
横浜地域 (3)	二俣川看護福祉高校	2019 年 6 月 11 日	進路相談企画
	瀬谷西高校	2019 年 6 月 18 日	進路相談企画
	白山高校	2019 年 5 月 16 日	進路相談企画
川崎地域 (1)	生田東高校	2019 年 10 月 3 日	進路相談企画
県西地域 (6)	足柄高校	2019 年 6 月 6 日	進路相談企画
	大井高校	2019 年 11 月 11 日	進路相談企画
	山北高校	2019 年 5 月 31 日	進路相談企画
	相洋高校	2019 年 10 月 1 日	進路相談企画
		2019 年 10 月 9 日	進路相談企画
		2019 年 11 月 21 日	進路相談企画
		2020 年 2 月 12 日	進路相談企画
	西湘高校	2019 年 9 月 12 日	進路相談企画
県外 (1)	山崎高校	2019 年 12 月 24 日	進路相談企画
合計 (延54日の出席)			

※ 2020年3月に延13日依頼があり出席予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる。

9. 年間の行事

- 4月 3日 始業式、離着任式
- 4日 入学式
- 20日 保護者説明会（看護第一学科 3年生）
- 24日 定期健康診断
- 25日 実習病院合同就職説明会
- 5月18日 たまご祭 一日看護体験
- 6月13日 厚看卒新人看護師のつどい
- 7月23日 夏期臨地実習指導者研修会
- 7月25日 職員研修会
- 9月 5日 防災訓練
- 14日 看護第一学科（社会人第1回）入学試験
- 10月 5日 保護者説明会（看護第一学科 1年生、2年生）
- 12日 看護第一学科（推薦・公募推薦）入学試験
- 11月14日 看護を考える日・特別講演
- 12月10日～11日 看護研究発表会（看護第一学科）
- 12日 禁煙講演会
- 13日 事例研究発表会（看護第二学科）
- 1月15日 看護第一学科（一般第1回・社会人第2回一次）入学試験
- 23日 看護第一学科（一般第1回・社会人第2回二次）入学試験
- 2月16日 第109回看護師国家試験
- 3月 3日 卒業式
- 9日 看護第一学科（一般第2回）入学試験
- 27日 終業式
- （3月26日 講師会議 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

10. 年間行事等の実施状況

(1) 文化祭（第26回たまご祭）

ア. テーマ 『ReBorn～笑顔で咲かせる厚看の花～』

イ. 開催日時

2019年5月18日（土）10：00～15：00

ウ. 来場者数

466人

エ. テーマに込めた思い・文化祭目標

今年度のテーマは「生まれ変わった」「再生」の意義があります。昨年度より大きく自治会組織の運営が変わり、学生の手で新たに作り出すものが増えました。さらに、51回目の文化祭という新たなスタートの区切りであることをテーマに重ね合わせました。

変化に対して臆することなく、笑顔を忘れずに乗り越えていき、より良い厚木看護専門学校を学生みんなで創り上げていくこと、また、文化祭を通し、地域の方々へ笑顔を届けたいという想いを込めました。

(2) 看護を考える日・特別講演

ア. 目的

講演・グループワークを通して看護の役割を認識し、責任ある行動について考えられる。

イ. テーマ

「学習を継続する必要性を認識し努力できる

—多職種と連携しながら看護師として意見を述べるために努力すること—」

ウ. 開催日時および場所

2019年11月14日（木）13：00～16：00

当校 講堂および教室

エ. 特別講演・講師

神奈川リハビリテーション病院 家族支援専門看護師

白石 悦子先生

(3) 実習病院合同就職説明会

ア. 参加学生数

看護第一学科 151名、看護第二学科 14名 計 165名

イ. 参加施設数

実習施設8病院、神奈川県立病院機構

ウ. 開催日時および場所

2019 年 4 月 25 日（木）13：00～17：00

当校講堂にて

エ．内容

- ・参加施設ごとのプレゼンテーション（施設概要・教育体制等）
- ・施設ブースに分かれ、就職および奨学金等の進路相談の実施

（４）看護第一学科指定校推薦に関する説明会

ア．参加対象

看護第一学科の推薦指定校の進路担当の教諭

イ．参加数

32 校

ウ．開催日時および場所

2019 年 6 月 7 日（金）15：00～16：00

当校 2 階 第 1 教室

エ．説明内容

- ・入学案内および指定校推薦入学に関する説明
- ・意見交換（グループでのディスカッション）
- ・1 年生による看護技術演習を見学、推薦指定校出身者との触れ合い

（５）厚看卒新人看護師のつどい

ア．目的

前年度に当校を卒業し、就職した新人看護師がつどい、同研修を受けることによりリフレッシュし、仕事に取り組む活力を見出す。

イ．目標

- （ア）同期生との交流を通して、看護師として働いている自己の洞察を深めることができる
- （イ）現状の共有ができる
- （ウ）明日への活力を見出すことができる

ウ．対象

2019 年度 看護第一学科、看護第二学科 卒業生 84 名

エ．開催日

2019 年 6 月 13 日（木）14：00～17：00

オ．内容

講演：テーマ「レジリエンスを高めよう ―折れない心で働くために―」

講師：江口智子先生

グループワーク：看護師になり 3 ヶ月経った「今」を考える

（グループ毎にファシリテーター教員による支援の実施）

(6) 保護者説明会

厚木看護専門学校の学生の学習継続を支援するために、保護者との連携を図ることを目的に実施した。

ア. 目標

(ア) 教育課程の理解を得る

(イ) 看護専門学校における学生支援の理解を得る

イ. 対象

当校看護第一学科学生の保護者

ウ. 開催時期および参加者数

1年生：2019年10月5日（土） 1年生保護者 40人

2年生：2019年10月5日（土） 2年生保護者 19人

3年生：2019年4月2日（土） 3年生保護者 29人

(7) 地域高齢者との交流（自治会敬老会への参加）

「老年期にある人の地域での活動や役割について知る」という目標で、老年看護学Ⅰ実習の一環として地域の自治会敬老会へ参加している。

ア. 参加学生

看護第一学科1年生 85名

イ. 参加対象者

松枝自治会敬老会の方

当日参加者 60名

ウ. 開催日時および場所

2019年9月28日（金）13：00～16：50

当校 講堂

エ. 内容

・式典

・看護学生による「お祝いショー」

・ふれあい会（自治会敬老会参加者と看護学生とのふれあい）

(8) 手作りおもちゃの遊びの会

小児看護学Ⅲの授業の一環として、学生の作成した手作りおもちゃを使用して、地域に住む小児や家族と関わり、遊びの意義やコミュニケーション技術、対象理解を深めるために実施している。

ア. 参加学生

看護第一学科2年生 76名

イ. 参加対象者

厚木市内の保育園、幼稚園の園児、近隣に在住の乳幼児および保護者の方

当日参加者 108 名

ウ. 開催日時および場所

2019 年 10 月 31 日 (木) 9 : 30 ~ 11 : 30

当校 講堂

エ. 内容

- ・ 学生が作成した手作りおもちゃの展示とおもちゃを活用した遊びの実際
- ・ 地域で生活する小児や保護者の方と関わり、安全で楽しい遊びの場の提供

(9) 推薦入学生準備説明会

ア. 参加対象

看護第一学科の推薦入学生および保護者

イ. 参加者数

推薦入学予定者 60 名 保護者 20 名

ウ. 開催日時および場所

2019 年 11 月 16 日 (土) 10 : 00 ~ 11 : 00

当校 4 階 第 8・9 教室

エ. 内容

- ・ 入学に向けた心構えについて
- ・ 入学前の課題学習について
- ・ 奨学金等について

(1 0) 禁煙講演会

ア. テーマ

「タバコの害を正しく知ろう～禁煙・防煙の支援者となるために～」

イ. 開催日時および場所

2019 年 12 月 12 日 (木) 14 : 40 ~ 16 : 20

当校講堂

ウ. 講演・講師

ちょうふタバコ対策ネットワーク

星野 吉計 先生

(11) 学生のボランティア活動等

ア ボランティア活動

実施年月日	イベント名	実施内容	実施場所	参加人数	
				一科	二科
5月11日	第23回ふれあいフェスティバル (社会法人かながわ協同会)	模擬店	七沢学園グラウンド	1年4名 3年1名	
7月14日	介護老人保健施設 老健さがみ	案内、見守り	老健さがみ	2年1名	
7月22日	夏休みボランティア (厚木市 協働安全都市 市民協働推進課 市民協働 推進係より) 子育てサロンすくすく	外来種の駆除	厚木こどもの森公園	2年2名	
8月2日	AIDS文化フォーラム (神奈川県)	設営、アンケート 配布等	神奈川県民センター	3年1名	
8月3日	海老名北夏祭り (海老名北高齢者施設)	模擬店	海老名北高齢者施設	1年2名	
8月7日	愛光病院 あいこう祭り (医療法人弘徳会愛光病院)	模擬店	愛光病院	1年2名	
9月4日	つながるネット (ボランティア団体つな がるネット)	路上生活者に対し て一人ひとりを訪 ね歩く	新宿駅周辺	1年1名	
9月7・8日 10月12・13・ 26・27日	ハーモニーケア訪問看護 ステーション	家族との対話	在宅	1年1名	
11月30日	第21回神奈川看護学会	会場係り 受付け、案内、 誘導	パシフィコ横浜	1年4名	

イ 学生のインターンシップへの参加状況

施設名	参加人数	
	一科	二科
愛光病院	1年生 1名 2年生 6名	
厚木市立病院	1年生 8名 2年生 4名	
伊勢原協同病院	2年生 11名	2年生 3名
海老名総合病院	1年生 2名 2年生 7名	

神奈川県立足柄上病院		2年生 3名
神奈川県立がんセンター	2年生 1名	
神奈川県立こども医療センター	2年生 2名	
神奈川県立循環器呼吸器病センター	2年生 1名	
神奈川リハビリテーション病院	2年生 9名	
桜ヶ丘中央病院	1年生 1名	
座間総合病院	2年生 1名	
東名厚木病院	1年生 7名 2年生 8名	
秦野赤十字病院	1年生 1名 2年生 6名	
大和市立病院	1年生 2名 2年生 4名	

11. 図書活動状況

(1) 蔵書冊数

図書		
分類	冊数	構成比
哲学・心理学	874	4.9%
社会科学	1,524	8.6%
福祉	425	
教育	514	
自然科学及び技術・家政学	9,195	
医学	3,527	
看護学	5,595	
文学	1,940	10.9%
上記以外の一般書（歴史・語学等）	2,289	12.9%
製本雑誌	1,917	10.1%
図書計	17,739	100.0%

視聴覚資料		
分類	点数	構成比
福祉	12	1.2%
医学	255	24.9%
看護	662	65.6%
その他	94	9.2%
視聴覚資料 計	1023	100.0%

(2) 新規受け入れ状況

図書		
分類	冊数	構成比
哲学・心理学	7	1.3%
社会科学	37	6.7%
自然科学及び技術・家政学	80	14.5%
看護学	293	53.0%
文学	12	2.2%
上記以外の一般書（歴史・語学等）	83	15.0%
製本雑誌	41	7.4%
図書計	553	100.0%

(3) レファレンスサービス

相互貸借（複写）			外部 図書館 紹介
依頼		受付	
学内	神奈リハ		
145	20	1	1

(4) 貸出状況（利用実績）

(貸出冊数)											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
383	339	376	180	131	121	242	182	134	153	147	21

